

平成30年度

研究開発実施報告書（要約）

研究開発課題

文化や価値観などの異なる人々とよりよい人間関係を構築できる資質・能力を育成するための、初等中等教育段階におけるグローバル化に対応した教育環境づくりを柱とした教育課程の研究開発

（第2年次）

平成31年2月

東川町立東川小学校 外6校（園）

1	東川町立東川小学校 外6校(園)	29～32
---	------------------	-------

平成30年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

文化や価値観などの異なる人々とよりよい人間関係を構築できる資質・能力を育成するための、初等中等教育段階におけるグローバル化に対応した教育環境づくりを柱とした教育課程の研究開発

2 研究開発の概要

自国や地域の文化や伝統への理解を深めるとともに、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていくために（多文化共生）、「人間尊重の精神を基調とする国際感覚」を養い、「国際社会に通用するコミュニケーション能力」の向上を図る教科として、『グローブ(Globe)』を創設し、国際教育における初等中等教育の一体的な教育課程の在り方を探る。

具体的には、次の3点の研究を行う。

- ① 新教科『グローブ(Globe)』の創設と指導内容、指導方法及び評価方法の在り方
- ② 幼・小、中・高における国際教育や英語教育（コミュニケーション能力）の接続の在り方
- ③ 外国語に慣れ親しみ、異文化理解を深めるための地域人材（12か国のJETスタッフ、10か国の日本語学校留学生）の有効的な活用の在り方

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究の目的

ふるさと東川を愛する心情を高め、人間尊重の精神を基調とする国際性を養い、国際社会に適用するコミュニケーション能力を育成するため、新教科『グローブ(Globe)』を創設し、指導内容、指導方法、評価方法の在り方を探る。

(2) 研究仮説

国際教育を中核とした新教科『グローブ(Globe)』を創設し、指導内容、指導方法及び評価方法を体系的に構築することにより、自国や地域の歴史や文化、伝統に対する理解を深めるとともに、異文化を理解し、異なる文化や習慣をもつ人々とともに生きていく（多文化共生）ための資質・能力を育むことができる。

(3) 教育課程の特例

① 創設教科『グローブ(Globe)』 授業時数

小学校1・2年 年間 35時間、小学校3・4年 年間 70時間

小学校5・6年 年間105時間、中学校1～3年 年間160時間

高等学校1・2年 年間150時間、高等学校3年 年間100時間

② 既存教科等の授業時数変更に伴う対応案

小学校1・2年 生活科から15時間、学校裁量の時間から20時間

小学校3・4年 総合的な学習の時間から35時間、外国語活動から35時間

小学校5・6年 総合的な学習の時間から35時間、外国語から70時間

中学校1～3年 総合的な学習の時間から20時間、外国語から140時間

高等学校1・2年 特別活動から10時間、外国語から140時間

高等学校3年 特別活動から7時間、外国語から93時間

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

① 『グローブ(Globe)』カリキュラムについて

自国や地域の歴史や文化、伝統に対する理解を深めるとともに、異文化を理解し、異なる文化や習慣をもつ人々とともに生きていく（多文化共生）ための資質・能力を育むことができる。

次の3要素で、グローバル化に対応する資質・能力を育むことを目的に、小学校・中学校におけるカリキュラムを編成した。

「ローカル」要素 : 自国や地域の文化や伝統に根ざした自己の確立を図る。
(自己理解、郷土理解)

「グローバル」要素 : 多様な文化を受容し、共生することのできる態度を育成する。
(異文化理解、多文化共生)

「コミュニケーション」要素 : 文化の異なる人々との英語をツールとしたコミュニケーション能力を育成する。
(コミュニケーション)

【幼稚園】

- ・年中児には、日本の伝統行事や外国の行事に関わる活動の中にALTが入り、園児との交流を図ることにより、自分とは違う国の人に親しみをもつとともに、英語のゲームや歌に取り組み、英語に親しむことができるようにする。
- ・年長児には、ALTの主導の下、簡単な英単語を使い、歌・踊り・ゲームなどの活動を通して英語に親しむようにするとともに、遊びの楽しさを友達と共感できるようにする。
- ・小学校との滑らかな接続に向けて、「幼・小連携事業」においては、『グローブ(Globe)』を実施する。

【小学校】

- ・「ローカル」要素（以下、【L】とする。）
集団活動に進んで参加するなど、自分の役割を自覚し、責任を果たそうとするとともに、自分の地域や国の伝統や歴史、郷土を愛する心を持っている。
- ・「グローバル」要素（以下、【G】とする。）
どの国・民族の文化でも尊重し、誰とでも公平に接するとともに、日頃から人との関わりを大切に、寛容的及び協力的な態度で生活していこうとする。
- ・「コミュニケーション」要素（以下、【C】とする。）
外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。

【中学校】

- ・【L】自分に自信をもつとともに、自己を見つめ個性を伸ばそうとする態度を身に付け、自分と自分を取りまく社会との関わりを理解し、よりよい社会を創ろうとする。
- ・【G】異なる文化をもつ人々が共生する社会を受容するとともに、日頃から考えや習慣の異なる人に対して、寛容的及び協力的な態度で生活しようとする。
- ・【C】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。
- ・「コミュニケーション」要素において、東川の児童生徒の目指す姿である「国際社会に活躍する人材の育成」のために、自分の住む地域である東川町や日本文化を理解するとともに、他国の文化や自分と異なる人々と共に生きていくために必要なコミュニケーションツールである外国語（英語）をしっかりと定着させる必要がある。したがって、基本的に現行の外国語科の年間指導計画を活用する。

【高等学校】

- ・【L】 社会における自分の担う役割や責任、自分のもつ可能性を自覚し、自己肯定感を高め、学びや協働に向かう積極性をもっている。
- ・【G】 多文化共生社会を受容し、自らその形成者として共に生き、共に課題に取り組もうとする参画と貢献の姿勢がある。
- ・【C】 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付け、言語や文化に対する関心をもっている。
- ・小学校との連携を図り、英語の書き方指導や正しい発音指導などを行うことで、教える立場という相手のことを考えた言動を身に付けることができる。

② 幼・小・中・高の連携について

・ 幼から小への接続

カリキュラムは、幼・小お互いに把握している。したがって、幼児センターで学習してきた「色 (colors)」や「果物 (fruits)」、「体の部分 (body)」などを活用することで「知ってる」「楽しい」と小学校へ滑らかな接続の一つとなり、さらに小学校のGlobeへの意欲につながっている。この他に、**幼小中連携事業**の年長と小1の交流では、Globeを実施した。幼児センターから行っている「あいさつ」と「色 (color)」を英語で言う活動を通して楽しみながら取り組むことができた。

・ 小から中への接続

4つの小学校から全員が東川中学校へ入学することを考え、Classroom Englishの統一を図った。このことにより、中学校への滑らかな接続の一つとなると考えた。

実際に昨年度の途中から6年生を対象に取り組んだことで、現在の1年生では反応もよくスムーズに挨拶などを交わすことができているなど、効果がみられている。

③ 地域人材の活用について

・ JETプログラムスタッフ

本町には、6名のALT (Assistant Language Teacher 外国語指導助手) によるGlobeの授業、2名のSEA (Sports Exchange Advisor スポーツ国際交流員) による体育の授業や少年団活動及び部活動 (野球、バレーボール)、8名のCIR (Coordinator for International Relations 国際交流員) によるイベント参加や国際交流活動を行うJETプログラムスタッフが在住している。

特にALTは各校に常駐しており、Globeの授業の他、休み時間や給食時間などでも子どもたちと接する機会があり、自然と外国を身近に感じることができる。

Globeの授業では、単元の終末において、様々な国の人々に学習したことを使って伝える場面を設定することにより、英語で伝えようという必然性が生まれるようにしている。児童は、既習事項の英単語やジェスチャーを使い、相手に伝えることを目的として、意欲的に活動するとともに、伝わった瞬間は互いにうれしそうな表情を見せるなど、達成感を得ることができた。

・ 日本語学校留学生

本町には、全国で初めての町立日本語学校がある。日本語を学びにアジア圏を中心に本町へ学びに来ている。

簡単な英語でのやりとりや日本語会話による交流でお互いに価値のある活動が展開できる。子供たちにとっては学習した英語を使って伝わるように、日本語学校の留学生にとっては学習した日本語を使って伝わるように努力することと互いの文化を伝え**理解し合う**ことにもつながる。

(2) 研究の経過

第 一 年 次	<p>『グローブ(Globe)』推進のための組織づくりとカリキュラム作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究開発学校指定の4年間を見通した研究の骨子の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・研究組織（グローブ推進チーム、運営指導委員会）の設置 ・各学校、関係機関における研究の方向性（創設の目的、仮説等）の共通理解及び連携の明確化 ・研究計画（内容、方法、評価）の作成 ○ 新教科『グローブ(Globe)』のカリキュラム編成 <ul style="list-style-type: none"> ・各学校種間における接続を意識したカリキュラムの作成 ・『グローブ(Globe)』における3要素構成の内容検討 <ul style="list-style-type: none"> 「ローカル」要素： <ul style="list-style-type: none"> 自国や地域の文化や伝統に根差した自己の確立 「グローバル」要素： <ul style="list-style-type: none"> 多様な異文化を受容し、共生することのできる態度の育成 「コミュニケーション」要素： <ul style="list-style-type: none"> 文化の異なる人々との英語をツールとしたコミュニケーション能力の育成 ・コミュニケーション要素（外国語活動、英語科）の系統的（幼・小・中・高）な指導方法の検討 ・外国人の効果的な活用場面等の検討 ○ 評価方法の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒、学校、学校関係機関、保護者地域住民等による評価の在り方の検討 ・英語能力調査（中学校・高等学校：英検IBA）の実施 ・評価の観点、評価方法の検討 ・グローブ推進チームと運営指導委員会による評価や指導をもとにした第1年次の成果と課題のまとめ及び第2年次以降の計画の修正
第 二 年 次	<p>新教育課程の先行実施及び『グローブ(Globe)』カリキュラムの完成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 『グローブ(Globe)』カリキュラムの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに基づく実践と課題の明確化、改善 ・CAN-DOリストの見直し ・複式校におけるカリキュラムの研究（～4年次まで） ・評価の観点、評価規準の見直し ・コミュニケーション要素における系統的な指導の実施 ・指導資料、教材の検証と改善、改訂 ・東川町在住の外国人（ALT、CIR、SEA等）の積極的活用 ○ 実践研究発表会開催に向けての準備 <ul style="list-style-type: none"> ・第3年次・第4年次における研究会開催の計画、準備 ○ 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・英語能力調査（小学校：GTECJunior、中学校・高等学校：英検IBA）、自己評価、外部評価、英検IBA等スコア比較、質問紙調査による評価 ・第2年次の成果と課題のまとめ及び第3年次以降の計画の修正 ○ 保護者、地域への啓発・周知

<p style="text-align: center;">第三 年次</p>	<p>『グローブ(Globe)』カリキュラムの実施・評価・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ カリキュラムの実施・評価・改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3要素における、幼・小と中・高の滑らかな接続の在り方の研究 ・ コミュニケーション要素における、「読むこと」、「書くこと」の学習内容の小・中連携による系統的な指導の実施及び5つの領域の言語活動での評価 ○ 実践研究発表会（プレ研）の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校、中学校、高等学校における授業公開 ・ 幼稚園における外国語活動の公開 ○ 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語能力調査（小学校：GTECJunior、中学校・高等学校：英検IBA）、自己評価、外部評価、英検IBA等スコア比較、質問紙調査による評価 ・ 第3年次の成果と課題のまとめ及び第4年次の計画作成 ○ 指導資料の作成
<p style="text-align: center;">第四 年次</p>	<p>新教育課程の完全実施及び『グローブ(Globe)』研究の成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ カリキュラムの実施・評価・改善 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3要素における、幼・小・中・高の有機的な連携についてのまとめ ・ コミュニケーション要素における、「読むこと」、「書くこと」の学習内容の小・中連携による系統的な指導の実施及び5つの領域の言語活動での評価 ・ 他地域での『グローブ(Globe)』導入及び普及についての検討 ○ 研究実践発表会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校、中学校、高等学校における授業公開（3要素） ・ 幼稚園における国際教育（外国語活動）の公開 ○ 英語を用いてコミュニケーションを図る体験の場の設定 ○ 評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語能力調査（小学校：GTECJunior、中学校・高等学校：英検IBA）、自己評価、外部評価、英検IBA等スコア比較、質問紙調査による評価 ・ 児童生徒、教員、関係機関、地域等の意識調査及び分析 ・ 成果と課題のまとめ及び一般化のための提案（研究報告書の作成） ○ 研究開発学校指定後における『グローブ(Globe)』の方向性の検討

(3) 評価に関する取組

<p style="text-align: center;">第一 年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒に係る『グローブ(Globe)』実施の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・生徒の授業後の振り返りシート、意識（質問紙）調査、パフォーマンス（行動観察）等による実態の把握及び分析 ・ 英語能力調査（小学校：GTECJunior、中学校・高等学校：英検IBM）の実施 ○ 研究推進全体に係る評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新教科創設にかかる運営指導委員会の指導・助言（8月） ・ 関係機関、JETスタッフ及び保護者によるアンケート調査の実施、結果の分析（11月） ・ カリキュラム編成にかかる運営指導委員会の評価・指導・助言（1月） ○ 教員による意識調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園、小・中学校、高等学校教員による意識（質問紙）調査の実施（11月）
--	---

第二 年次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒に係る『グローブ(Globe)』実施の評価 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析 ・英語能力調査(小学校：GTECJunior、中学校・高等学校：英検IBA) 実施 ○ 研究推進全体に係る評価 <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関、JETスタッフ及び保護者によるアンケート調査の実施、結果の分析及び経年比較(11月) ・運営指導委員会の評価・指導・助言(1月) ○ 教員による意識調査 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度における意識(質問紙)調査の継続的な実施(11月)
第三 年次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度の各評価(児童・生徒、研究推進全体、教員)の継続的な実施及び分析 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析 ・英語能力調査(小学校：GTECJunior、中学校・高等学校：英検IBA)の実施 ○ 公開研究会(プレ研)実施による検証 <ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程を先行的に実施し、公開研究会を開催することで外部評価により成果と課題を明らかにし、次年度への改善につなげる。
第四 年次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度の各評価(児童生徒、研究推進全体、教員)の継続的な実施、分析及び検証 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度の各調査における継続的な実態の把握及び分析 ・英語能力調査(小学校：GTECJunior、中学校・高等学校：英検IBA)の実施 ・各評価の4年間の集積データのまとめ ・研究報告にかかる運営指導委員会の評価・指導・助言 ○ 研究実践発表会実施による検証 <ul style="list-style-type: none"> ・研究実践発表会を開催し、本研究4年間の成果と課題を明らかにし、まとめを行う。

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

① 児童・生徒への効果

【幼児センター】(年間10回のGlobe)

幼児は、月1回の「Globe」に意欲的に取り組んでいる。

屋外での活動においても、ALTに「何て言うの?」と英語の名前を聞くことも増えた。町内でALTに会うと声をかけるなど、外国語に慣れ親しみ自然に様々な国の人たちと触れ合おうとする意欲が向上している。

【小学校】(低学年～週1回、中学年～週2回、高学年～週3回)

当初、様々な国の人たちとの接することに抵抗を感じる(恥ずかしさ、自分とは違う外見など)児童が多かったが、自然に英語で挨拶をする児童が多くなってきた。

昨年の外国語活動に抵抗を感じていた児童が意欲的に取り組むようになってきた。

挨拶、数字、食べ物などの単語だけでなく「他の国では何て言うのかな?」と世界に目が向けられるようになってきている。興味関心の高まりから「書きたい」「調べたい」と積極的な行動も目立ってきている。

外部講師などの人材をできるだけ多く活用したことで、様々な国や地域の人たちと触れ合うことに抵抗が少なくなっている。(日本語学校の留学生、JET(ALT、SEA、CIR)メンバー、地域の人々)

【中学校】

中学校第1学年の「Globe I」については、昨年からクラスルームイングリッシュを小学校、中学校で統一したことにより、日付、天気などを含めたやり取りもつまづくことなくできるようになった。

「Globe II」については、日本語学校との交流を通して、真剣に課題解決に向けて考えることができ、世界情勢を真剣に考える生徒が増えた。中学校第3学年では、フェアトレードについて学んだことで、フィンランドに留学した際、ホテルにフェアトレードのコーヒーが置いてあったことに気づき、学んだことを体験できた姿があった。

【高等学校】

「Globe」の実践を重ねることにより、より目的意識をもって英語が使えるようになってきた。昨年度より外部講師を多く取り入れていることから、世界に目を向けさせることや、世界について考えさせることができた。

東川町の魅力について英語を使って紹介したり、質問に応じたりする活動を通して、学習意欲が高まった。

② 教職員への効果

小学校では、HRT（学級担任）が全体の指示や、発問を行い、ALTが例示、チャンツなど主に発音の指導を行うなど、JTEとALTの役割を明確にした授業を行うことができるように指導体制を工夫した。はじめは戸惑いも見られたが、授業へのイメージがつかめるにつれ、積極的に授業改善に取り組むことができるようになってきた。

中学校では、「Globe I」は英語教師が指導を行い、「Globe II」は学級担任が指導を行うなど役割を明確にするとともに、校内研修の充実を図るなど校内体制の構築が図られていた。

高等学校では、担当教員が中心となって「Globe」を行っている。他教科・他領域の学習にも「Globe」に関連した取組を行っている。

③ 保護者への効果

国際教育には高い関心をもつ保護者が多い。今年度から「Globe news」と題して幼・小・中・高の校種別における「Globe」の取組を町民・保護者へ発信した（2回）。

今後は、昨年度に引き続きアンケートを取り、国際教育に関わる意識の調査を行う。

(2) 研究実施上の問題点と今後の課題

- カリキュラムの実践を通して、教科書との関連が図られていない単元構成がみられたことから、単元の目標を見直す必要がある。また、各単元で設定している目標が学習活動に正対しないことがあることから、今年度の実践をもとに単元の指導計画を見直す必要がある。
- 評価について「振り返りシート」の児童の記述を活用してきたが、今後は、数値化による客観的な評価を行う必要がある。
- 外国語教育の系統性について、高等学校卒業までに、身に付けさせる力を明確にする必要がある。また、小中高のカリキュラムの中に学習内容とのつながりを明確にする必要がある。
- 全教職員が共通理解を図り、研究開発を推進できる校内研修を工夫改善する必要がある。
- 教材・教具について、共有できるよう各学校の連携を図る必要がある。
- 外国語の内容（「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」）の5領域を意識した中で、特に「書くこと」を取り入れた指導を工夫する必要がある。

① 東川小学校 教育課程表（平成30年度）

	各教科の授業時数									道徳	外国語活動・外国語	総合的な学習の時間	特別活動	グローブ（新設教科）	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第1学年	306		136		87 (-15)	68	68		102	34			34	35 (+35)	870
第2学年	315		175		90 (-15)	70	70		105	35			35	35 (+35)	930
第3学年	245	70	175	90		60	60		105	35	0 (-35)	35 (-35)	35	70 (+70)	980 (+35)
第4学年	245	90	175	105		60	60		105	35	0 (-35)	35 (-35)	35	70 (+70)	1015 (+35)
第5学年	175	100	175	105		50	50	60	90	35	0 (-70)	35 (-35)	35	105 (+105)	1015 (+35)
第6学年	175	105	175	105		50	50	55	90	35	0 (-70)	35 (-35)	35	105 (+105)	1015 (+35)
計	1461	365	1011	405	177 (-30)	358	358	115	597	209	0 (-210)	140 (-140)	209	420 (+420)	5825 (+180)

※ 第1・2学年については、学校裁量の時間より20時間を『グローブ（Globe）』に充てるため、組み替えた時数の合計と『グローブ（Globe）』の時数は一致しない。

東川②第一③第二④第三小学校 教育課程表（平成30年度）

	各教科の授業時数									道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	グローブ（新設教科）	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第1学年	306		136		87 (-15)	68	68		102	34			34	35 (+35)	870 (+20)
第2学年	315		175		90 (-15)	70	70		105	35			35	35 (+35)	930 (+20)
第3学年	245	90	175	105		60	60		105	35	0 (-35)	35 (-35)	35	70 (+70)	1015 (+35)
第4学年	245	90	175	105		60	60		105	35	0 (-35)	35 (-35)	35	70 (+70)	1015 (+35)
第5学年	175	105	175	105		50	50	60	90	35	0 (-70)	35 (-35)	35	105 (+105)	1020 (+35)
第6学年	175	105	175	105		50	50	60 (+5)	90	35	0 (-70)	35 (-35)	35	105 (+105)	1020 (+35)
計	1461	390	1011	420	177 (-30)	358	358	120	597	209	0 (-210)	140 (-140)	209	420 (+420)	5870 (+180)

※第1・2学年については、学校裁量の時間より20時間を新教科『グローブ(Globe)』に充てるため、組み替えた時数の合計と『グローブ(Globe)』の合計は一致しない。

※第3・4学年及び第5・6学年は、複式学級で編成していることから、標準時数を上回って教育課程を編成している。(第3・5・6学年)

④ 東川中学校 教育課程表（平成30年度）

	各教科の授業時数									道徳	総合的な学習の時間	特別活動	グローバル（新設教科）	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語					
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	0 (-140)	35	30 (-20)	35	160 (+160)	1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	0 (-140)	35	50 (-20)	35	160 (+160)	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	0 (-140)	35	50 (-20)	35	160 (+160)	1015
計	385	350	385	385	115	115	315	175	0 (-420)	105	130 (-60)	105	480 (+480)	3045

⑥東川高等学校 教育課程表（平成30年度）

	各教科の授業時数										グ ロ ー ブ	総 学 習 的 の な 時 間	特 別 活 動	総 授 業 時 数
	国 語	地歴 公民	数 学	理 科	外 国 語	芸 術	家 庭	体 育	情 報	商 業				
第1学年	140	105	140	105	0 (-140)	70	70	140		35	150	70	160 (-10)	1185 (0)
第2学年	105	105	140	105	0 (-140)	70	70	140		70	150	70	160 (-10)	1185 (0)
第3学年	105	140	105	140	0 (-93)	70		70	70		100	35	85 (-7)	920 (-10)
第3学年 次選択 2単位 3単位 を各1つ 選択		時事 問題 研究 70	数学 B 105	生物 研究 70	英語 表現 I 105 英語 会話 70		子ど もの 発達 と保 育 105	スポ ーツ A 70		電卓 基礎 計算 105				175 (2単 位・3単位 選択の合計)
計	350	350	385	350	0 (-373)	210	140	350	70	105	410	175	430 (-27)	3465 (-10)
選択科目 を履修し た場合		420	490	420	175		245	420		210				

※第1学年～3学年の外国語の授業時数を「グローブ (Globe)」に充てる。また、特別活動においても国際交流・国際理解に係る行事等を計画する。

学校等の概要①

1 学校名、校長名

東川町立東川小学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワショウガッコウ）

校長 前田 昭彦

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北8番地（Tel 0166-82-2425 Fax 0166-82-4711）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
59	2	58	2	57	2	60	2	56	2	46	2	331	12
知1 情4 肢1		知2 情4		知1 情3 言1		知1 情3 病1		知1 情2		知3 情3		知9 情17 病1 肢1 言1	知2 情3 病1 肢1 言1

(中学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数

(高等学校の場合)

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	〇〇科										
	××科										
	計										
定時制	△△科										
計											

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1	1		26		1		1	
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1		2	2	34						

学校等の概要②

1 学校名、校長名

東川町立東川第一小学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワダイイチショウガッコウ）

校長 岡 本 美 雪

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西10号北24番地（TEL 0166-82-2751 FAX 0166-82-5143）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
5	1	3	複式1	6		6	複式1	7		6	複式1	33	複式3
				情1				知1		情1		知1 情2	知1 情1

(中学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数

(高等学校の場合)

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	〇〇科										
	××科										
	計										
定時制	△△科										
計											

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			6			1		
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1		1	1	11						

学校等の概要③

1 学校名、校長名

東川町立東川第二小学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワダイ2ショウガッコウ）

校長 大 垣 秀 彦

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北32番地（Tel 0166-82-3019 Fax 0166-82-5170）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数								
4	1	7	1	7		7	複式1	7		9	複式1	33	複式3
		情1				情1				知1 情1		知1 情3	知1 情1

(中学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数

(高等学校の場合)

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	〇〇科										
	××科										
	計										
定時制	△△科										
	計										

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			7			1		
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1		1	1	13						

学校等の概要④

1 学校名、校長名

東川町立東川第三小学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワダイサンショウガッコウ）

校長 甲 斐 信太郎

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町東8号南1番地（Tel 0166-82-3015 Fax 0166-82-5183）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										
2		2	複式1	2		2	複式1	4		4	複式1	16	複式3
		情1		知1								知1	知1
												情1	情1

(中学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数

(高等学校の場合)

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	〇〇科										
	××科										
	計										
定時制	△△科										
計											

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			5			1		1
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1		1	1	12						

学校等の概要⑤

1 学校名、校長名

東川町立東川中学校（ヒガシカワチョウリツヒガシカワチュウガッコウ）

校長 安 達 啓 一

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町北町1丁目5番1号（TEL0166-82-2428 Fax0166-82-2348）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										

(中学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
82	3	82	3	77	3	241	9
知4 情1		知1 情5 病1		知1 情3 言1		17	知6 情9 病1 言1

(高等学校の場合)

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	〇〇科										
	××科										
	計										
定時制	△△科										
計											

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			21		1			1
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
1	1	1	1	29						

学校等の概要⑥

1 学校名、校長名

北海道東川高等学校（ホッカイドウヒガシカワコウトウガッコウ）

校長 渡 辺 文 貴

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町北町2丁目12番1号（TEL0166-82-2590 Fax0166-82-2534）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数										

(中学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数

(高等学校の場合)

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	70	2	68	2	79	2			217	6
計		70	2	68	2	79	2			217	6

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	助教諭	養護教諭	養護助教諭	栄養教諭	講師
1		1			17		1			1
ALT	スクール カウンセラー	事務職員	司書	計						
2	1	4		27						

学校等の概要⑦

1 学校名、校長名

東川町幼児センター（ヒガシカワチョウヨウジセンター）

園長 伊藤和代

2 所在地、電話番号、FAX番号

北海道上川郡東川町西4号北8番地（Tel 0166-82-3400 Fax 0166-82-4660）

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児	計
13	13	7				78人
9	11	8				8学級
		10				
		7				

4 教職員数

園長	副園長	事務長	室長	主任	教務	担任	特別支援教育 支援員	事務職員	看護師	栄養士
1	1			7	1	7	1	1	2	2
調理員	公務補			計	※主任兼務					
4	1			27						

平成30年度
研究開発実施報告書

第2年次

研究開発課題

文化や価値観などの異なる人々とよりよい人間関係を構築できる資質・能力を育成するための、初等中等教育段階におけるグローバル化に対応した教育環境づくりを柱とした教育課程の研究開発

平成31年2月

東川町立東川小学校 外6校（園）

1	東川町立東川小学校 外6校(園)	29~32
---	------------------	-------

平成30年度 研究開発実施報告書

ア 研究開発の概要

グローバル化の進展や絶え間ない技術革新などにより、社会構造や雇用環境は大きく、さらに加速度的に変化していくことが予想され、現在の子どもたちやこれから生まれてくる子どもたちにとって、予測困難な時代だといえる。少子化が進む中で我が国にとっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、様々な変化に適応し、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。グローバル化が急速に進展する中で、これまでのように一部の業種や職種だけでなく、生涯にわたり様々な場面で世界の人々と多種多様に関わることが想定されており、コミュニケーション能力の向上が課題となっている。我が国では、外国語を日常的に使用する機会は限られているが、現在、学校で学ぶ子どもたちが卒業し活躍する社会や世界の舞台は、多文化・多言語の中にあり、国際的な協調と競争の環境にあることが予想される。そうした中で、国民一人一人が、様々な社会的・職業的な場面において、外国語を用いて互いの考えを伝え合い理解し合うことが一層重要になることが想定される。

北海道のほぼ中央に位置する東川町は、大雪山連峰「旭岳」の麓で、雄大な自然景観に恵まれ、豊かな水と肥沃な大地の恵みと共に生活できる地域である。写真甲子園開催地の「写真の町」として、また、日本初の公立日本語学校を開校するなど数多くの留学生を受け入れる「国際交流の町」として全国的に注目を浴びている。

学校教育においては、6名のALT (Assistant Language Teacher 外国語指導助手) による外国語活動や外国語の授業、3名のSEA (Sports Exchange Advisor スポーツ国際交流員) による体育や少年団活動及び部活動 (クロスカントリー、野球、バレーボール)、8名のCIR (Coordinator for International Relations 国際交流員) によるイベント参加や国際交流活動、さらには留学生との交流など、JETプログラム (The Japan Exchange and Teacher Program) スタッフ17名や日本語学校留学生による国際教育推進により、ネイティブ・スピーカーに接する態度や外国語を使う力が育ちつつある。

一方で、それぞれの国際教育活動の有機的なつながりや、学校間での連携、小学校における外国語活動と中学校の外国語科の接続、外国語教育における幼・小・中・高における連携が十分ではない現状が見られる。また、自然豊かで国際色に恵まれた環境におかれているものの、有効に活用したり効果的に場の設定をしたりすることができていない。

本町の子どもたちは、校内はもとより校外でも、挨拶を交わすことができ、明るく活発である。保育園・幼稚園を同じ施設内に設置している「幼児センター」や小学校4校、中学校1校、高等学校1校があり、教育環境は充実しているものの、主体的に人と関わろうとする態度は十分ではない。また、豊富な地域素材や多種多様な人材が整っているにも関わらず、地域の理解や国際教育の充実が十分とは言えない。さらに、適切な言葉を使って相手と関わり伝え合うことにやや苦手意識がある。そこで、自国の文化や伝統への理解を深めるとともに、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていく子どもを育成したいと考え、以下の研究主題を設定した。

【研究主題】

ふるさと東川を愛する心情を高め、人間尊重の精神を基調とする国際性を養い、国際社会に通用するコミュニケーション能力の育成

【研究仮説】

国際教育を中核とした新教科『グローブ(Globe)』を創設し、指導内容、指導方法、評価方法を体系的に構築することにより、自国や地域の歴史や文化、伝統に対する理解を深めるとともに、異文化を理解し、異なる文化や習慣をもつ人々とともに生きていく（多文化共生）ための資質・能力を育むことができる。

自国や地域の文化や伝統への理解を深めるとともに、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていくために（多文化共生）、「人間尊重の精神を基調とする国際性」を養い、「国際社会に通用するコミュニケーション能力」の向上を図る教科として、『グローブ(Globe)』を創設し、国際教育における初等中等教育の一体的な教育課程の在り方を探る。

具体的には、次の3点の研究を行う。

- ① 新教科『グローブ(Globe)』の創設と指導内容、指導方法及び評価方法の在り方
- ② 幼・小・中・高における国際教育や英語教育（コミュニケーション能力）の接続の在り方
- ③ 外国語に慣れ親しみ、異文化理解を深めるための地域人材（12か国のJETスタッフ、10か国の日本語学校留学生）の有効的な活用の在り方

イ 研究開発の経緯

月	WG（ワーキンググループ）	各種
4月	Globe 実践スタート 外部講師の有効的活用 第1回ミニGlobe会議	・第1回 研究推進連絡協議会
5月	第2回ミニGlobe会議	・小学校向け研修会（SWITCH ON!） ・I-VAN 講演会（高校）
6月	第3回ミニGlobe会議	・教務会議（25日）
7月	第4回ミニGlobe会議 第5回ミニGlobe会議	・授業研（東小4年生）
8月	第6回ミニGlobe会議	・第2回 研究推進連絡協議会 ・教務会議（23日） ・第1回 運営指導委員会
9月	アンケート作成 第7回ミニGlobe会議	・第1回 外部評価委員会 ・授業研（東小6年生）
10月	アンケート作成 CAN-DO リスト作成 第8回ミニGlobe会議	・10日（水）上教研中部地区研究大会 国際理解教育班公開授業（小関T） ・24日（水）先進地視察（柴田T・神野） 上越教育大学附属中学校
11月	第9回ミニGlobe会議	・20日（火）長沼町へ講師派遣（松田T、森T） ・21日（水）町教研大会（三小） ・27日（火）文部科学省 実地調査 （東中2年・東小6年公開） ・30日（金）東川小教育実践発表会（東小）

実践・振り返り・改善
実践・振り返り・改善

12月	4日、Gtec junior (小学6年生)の実施 6日、英検 IBA (中学・高校全学年) 児童・生徒アンケート実施 第10回ミニGlobe会議 第11回ミニGlobe会議 ミニGlobe作業日25・26・27	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研(東中3年生) ・授業研(一小5・6年生) ・授業研(二小4年生) ・26日(水)Globe冬季研修会 (実践発表&講演会)
1月	第12回ミニGlobe会議	<ul style="list-style-type: none"> ・15日(火)研究開発学校研究協議会 (東京～文科省へ) ・教務会議
2月	次年度の方向性決定 第13回ミニGlobe会議 第14回ミニGlobe会議 第15回ミニGlobe会議 第16回ミニGlobe会議	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研(東川高) ・授業研(東小5年生) ・第3回 研究推進連絡協議会 ・第2回 運営指導委員会 ・第2回 外部評価委員会 ・報告書&次年度計画書の提出
3月	第17回ミニGlobe会議 第18回ミニGlobe会議 第19回ミニGlobe会議	新カリキュラム完成

ウ 研究開発の内容

(a) 教育課程の編成

自国及び地域の文化や伝統への理解を深め、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていくために(多文化共生)自分の地域である「東川を愛する心情」を高めるとともに、「人間尊重の精神を基調とする国際性」を養い、「国際社会に通用するコミュニケーション能力」の向上を図る教科として、『Globe(グローブ)』を創設した。

カリキュラムの内容は、グローバル化に対応する資質・能力を育むことを目的として3要素(「ローカル」「グローバル」「コミュニケーション」)で構成した。

東川町 研究開発学校

ふるさと東川を愛する心情を高め、人間尊重の精神を基調とする国際性を養い、国際社会に通用するコミュニケーション能力を育成する。



(b) 新教科の目標・内容・年間指導計画の表示

Globe目標 目指す子ども像

領域	内容	指導の視点	教科の観点	幼稚園	小学校低学年	小学校中学年
Local	自国の文化や伝統に根ざした自己の確立を図る。	自己理解 異文化理解 郷土理解	知識技能	英語に親しむ 英語のゲームや歌を楽しめる	自分の地域の自然や文化、生活に親しむとともに、自分の仕事をしっかり行う生活習慣を身につける。	自分の地域や国の自然や伝統・文化の良さに気付くとともに、自分の良さを知っている。
			思考判断表現力		自分の経験から思いや考えを持ち、順序立てて伝えることができる。	身のまわりの事象について、自分の考えをもち、他との共通点や相違点を考えながら、筋道をたてて伝えることができる。
			学びに向かう人間性		自分ができることは自分でしょうとし、良いと思うことを進んで行おうとすると共に、自分の地域に愛着をもっている。	自分のできることは進んで行い、自分の地域や国の伝統文化に親しみ、愛する心をもっている。
Global	多様な異文化を受容し、共生することのできる態度を育成する。	自己理解 異文化理解 問題解決 相互依存 多文化共生	知識技能	簡単な英語の指示を聞いて行動できる Yes, Noや簡単なあいさつの言葉を自ら発することができる	身のまわりの物の違いや、友達との個性の違いに気づく。	様々な文化や習慣があることを知り、相違点や共通点を見つけることができる。
			思考判断表現力	さまざまな国の人々に親しみをもつ 自分の好きな物、嫌いな物が言える	体験したことや身のまわりの事柄について疑問をもち、自分なりの考えを表現することができる。	身のまわりの事柄への疑問をもち、理解を深め、理由をあげて表現することができる。
			学びに向かう人間性	友達と上手に関わりながら生活していける 身のまわりの友達や自然環境に関心をもつ	友達と仲良く助け合うとともに他の国の人々や文化に興味をもつ。	友達を理解しようとし、信頼し助け合う関係を作ろうとするとともに、違う考えや文化に対して寛容な態度で接することができる。
Communication	文化の異なる人々との英語をツールとしたコミュニケーション能力を育成する。	自己理解 異文化理解 コミュニケーション	知識技能	遊びの楽しさを友達と共感できる 元気よくあいさつや返事ができる 自分の思いを伝えることができる	外国語を通して、他の国の文化や音声の違いに気付き、外国語の簡単なあいさつ等の表現に慣れ親しむ。	外国語を通して、文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。
			思考判断表現力		身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして、自分のことを伝え合う素地をやしなう。	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。
			学びに向かう人間性		外国語を通して言語やその背景にある文化に触れ、積極的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度をやしなう。	外国語を通して言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度をやしなう。

小学校高学年	中学校	高等学校	生涯
自分の地域や国の自然や歴史、文化を理解し、良さを知っている。	自分の地域や国の自然や歴史、伝統や文化の特色を知っている。自分の興味・関心を自己の成長に結びつけることができる。	自分の地域や国の文化とその背景を理解している。	自立して生活し、自分の地域や国に愛着をもっている。
様々な事象について自分の考えをもち、身のまわりの事柄に対する公平な判断力を身につけるとともに、自分自身のことや自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができる。	社会のさまざまな問題について情報をもとに広い視野で考え、問題解決に向けて表現を工夫して発表することができる。	自己の確立に努め、社会の様々な情報を元に公平に判断し、根拠をもって自分の意見を他者に述べることができる。	自分の地域や国の伝統、文化に誇りと責任をもち、海外の人に積極的に紹介できる
集団活動に進んで参加し、自分の役割を自覚し、責任を果たそうとするとともに、自分を大切にし、自分の地域や国の伝統や歴史、郷土を愛する心をもっている。	自分に自信をもつとともに、自己を見つめ個性を伸ばそうとする態度を身につけ、自分と自分を取りまく社会と関わりとする。	社会における自分の担う役割や責任、自分のもつ可能性を自覚し、自己肯定感を高め、学びや協働に向かうとする。	自分の地域や国の文化の継承や社会福祉に貢献しようとする。
他国や他民族等のさまざまな文化について知るとともに、我が国と他国の文化の違いを理解している。	他国や他民族等の様々な文化の違いや文化の背景を理解し、どの国の文化も尊重することができる。	他国や他民族等の文化を尊重し、国際社会の多様性を知ることで異なる価値観に対し理解を示している。	異文化や世界情勢の情報を継続的に取り入れ、生活に生かすことができる。
をもち、その問題に積極的に関わり、仲間と協力しながら課題を解決し、構成を考えながら、順序立てて表現することができる。	世界が抱える今日的な課題を身のまわりの事象とつなげて考え、そこから問題や課題を発見し、解決の方法を探り、表現を工夫して発表することができる。	国際社会における様々な課題を発見し、その解決に向けて多様な観点から思考・判断し、発信することができる。	世界の人々と助け合い、協力しながら課題を解決しようとする。
どの国・民族の文化でも尊重し、だれとでも公平に接するとともに、日頃から人との関わりを大切に信頼関係をつくろうとし、寛容で協力的な態度で生活していこうとする。	異なる文化をもつ人々が共生する社会を受容するとともに、日頃から考えや習慣の異なる人に対して、寛容で協力的な態度で生活しようとする。	多文化共生社会を受容し、自らその形成者として共に生き、ともに課題に取り組もうとする参画と貢献の姿勢がある。	互いの違いを尊重し、良好な人間関係を積極的に構築できる。
外国語の音声や文字、語彙、表現、構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気づき、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基本的な技能を身につけている。	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている。	外国語の音声や文字、語彙、表現、構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いや言語の働き、役割を理解するとともに、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている。	海外の人とでも自信をもってコミュニケーションを取ることができる。
コミュニケーションを行う目的や場所、状況などに応じて身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を身につけている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる。	日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション能力を身につけ、聞いたり読んだり話したりしたことを活用して話したり書いたりして発信することができる。	多くの情報や対話をもとに自分の考えを構築するとともに、公平な判断力をもち、自分の思いをどの世代・どの文化の人にも伝えることができる。
外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手・話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、言語や文化に対する関心をもっている。	海外の情報に関心をもち、どんな文化の人とでも積極的にコミュニケーションを図ろうとし、生涯にわたって学び続けようとする。

Globe 年間指導計画 一覧（幼稚園・小学校）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
幼稚園（年中）	英語に親しむ			英語の歌や絵本を楽しむ		
幼稚園（年長）	英語に親しもう 自分の住む国と世界について		英語の歌を楽しもう color/色	友達と上手に遊ぼう food/たべもの	英語のゲームを楽しもう animal/どうぶつ	英語のゲームを楽しもう body/からだ
1年（35）	①ともだち いっぱい（6） Hello, Nice to meet you. 自己紹介をしよう	②りんごを 5ください（3） Five apples, please	③スプリング（2） What's this? 春を見つけよう	④サマー（2） What's this? 夏を見つけよう	⑤あたまに タッチ（2） Touch your～.	⑥オータム（6） Let's count. 秋を見つけよう
2年（35）	①新しい先生とあいさつしよう（2） Hello, My name is～. 他の国や文化、趣味	②これは何？（5） What's this? ※ゲストチャーCIR	③時刻を 教えよう（5） What time is it? 世界の日課表		④好きな物を 伝えよう！ 聞いてみよう！（6） Do you like～？ ※日本語学校の生徒にインタビュー	
3年（70）	①あいさつをして友達になろう（5） Hello.I'm～. 日本と外国とのあいさつの違い		②ごきげんいかが？ ジェスチャーで伝えよう How are you?（4）	③数えて遊ぼう（8） How many～？ ※世界の数の数え方を知る。	④すきなものを伝えよう I like blue.（6） 外来語について知る	⑤何がお好き？ What do you like?（7） ※高学年に好きなものを尋ねる
4年（70）	①あいさつをしよう。自己紹介をしよう（6） ※世界のあいさつを知る。	②楽しもう、伝えよう。 日本の遊び、世界の遊び ※日本や世界の遊びについて知る。	③何曜日が好き？（3） Do you like 曜日？	④今、何時？（4） What time is it?	⑤おすすめの文房具セットを作ろう（4） Do you have a pen?	⑥アルファベット世界の文字。（9） ※日本語学校との交流
5年（105）	①自己紹介をしよう！ 仲間を大切にしよう！（11）		②東川の祭り世界の祭り（11） When is your birthday? ※東川の祭り ※JET、日本語学校の国のお祭り	③夢の時間割を作ろう（11） What do you have on 曜日？ ※世界の学校生活	④一日の生活を伝えよう（12） What time do you get up? ※世界の子どもたちの一日	⑤東川人材の有名人を紹介しよう（12） ※東川の有名人
6年（105）	①自分も相手も大事にしよう（11） ※JET、日本語学校とのやり取り	②日本のよさを再発見しよう（11） ※日本文化の紹介 ※外国の行事や食べ物	③わたしたちにできること（12）	④ここが私の生きる場所（12） Local紹介マップ	⑤ここから過去と未来を見つけよう（11） 自分史を伝え合おう	⑥お互いを知ろう（11） ※ALT、CIRと一緒にパラリンピックを体験しよう

() カッコ内は時数

青字～Local

赤字～Global

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
英語の歌や絵本を楽しむ 元気よく挨拶						
外国を感じよう halloween/ハロウィーン	英語を聞いて動いてみよう ゆっくと・はやく・とまって	英語の歌を楽しもう christmas/クリスマス	友達と上手に遊ぼう number/すうじ	英語で自己紹介 self-introduction/じこしょうかい		⑩外国っておもしろい(4)
	⑦きょうはなんようび?(2) What day is today?	⑧ウィンター(5) 冬を見つけよう Let's make snowmen. 日本と外国の雪だるま		⑨えいごでできるよ(3)		⑩外国っておもしろい(4)
⑤できることを紹介しよう(7) I can play～. ※日本語学校の生徒と交流		⑥伝統行事を知ろう!(2) ※日本の行事 ※外国の行事	⑦ファーストフード店で買い物をしよう(4)			⑩外国っておもしろい(5)
⑥アルファベットとなかよし(9) Please. Here you are.	⑦カードを送ろう。This is for you.(9) クリスマスカードを作ろう	⑧クイズ大会をしよう What's this?(9) ※日本語学校との交流		⑨1年生に紹介しよう Who are you?(9) ※1年生に英語で紹介		⑩外国っておもしろい(4)
⑦おいしいよ! 東川の給食(11) What do you want? ※東川のおすすめ給食 ※インター ナショナル給食		⑧学校のお気に入りの場所(6) Go straight.Turn right/left.	⑨自分の一日。みんなの一日(11) ※日本語学校との交流			⑩外国っておもしろい(4)
⑥行きたい国やその国で自分ができよう(10) What do you want to go? ※〇国の親善大使としてプレゼンしよう		⑦宝物はどこにあるでしょうか?(12) ※フィンランドの小学校との交流	⑧世界の料理と地元の料理(12) ※日本の伝統料理と東川の特産品 ※外国の伝統料理	⑨あこがれの人(12) ※日本のHERO ※JETにインタビュー		⑩外国っておもしろい(2)
	⑦それぞれの思い出を振り返ろう(11) 思い出のアルバムを作ろう 外国の学校行事を知ろう	⑧将来の夢について(12) ゲストティーチャーの海外の仕事の話		⑨中学校生活に向けて(12) 高校との交流		⑩外国っておもしろい(2)

		学習期		
		Globe科		
		中1【160】	中2【160】	中3【160】
4月	オリエンテーション 英語力診断テスト ① Hi, English 小学校の振り返り ③ Unit0 アルファベット ③ 学び方コーナー1 ①	オリエンテーション 英語力診断テスト① Unit0 My Spring Vacation Show and Tellをしよう ② ※ALT・CIRIに春休みの思い出を紹介する【G】 学カテスト～1年生の振り返り②	Unit0 Countries around theWorld② 学カテスト～2年生振り返り②	
	Unit1 はじめまして I am Ellen Baker./You are Ando Saki./Are you from New York? ※ALT・CIRIとあいさつ【G】 ⑥ 学び方コーナー2 ① 単元テスト～Unit1振り返り ①	Unit1 A Friend in a Sister School This pen was 150 yen last week./I was looking for my pencil case./You look happy.⑧ ※アメリカと日本文化の違い【G】 DailyScene1日記を書こう② 単元テスト～Unit1の振り返り②	Unit1 Pop Culture Then and Now This painting is loved by many people./Was this picture painted by the same person?/This idea makes me happy.⑧ DailyScene1食事の会話 ② Presentation1※日本文化紹介【L】④ 単元テスト～Unit1振り返り②	
5月	Unit2 学校で This is my pen./That is my pen./Is that an amusement park?/This is Alex.He is my friend. ※東川の有名人紹介【L】 ⑥ ※世界の有名人紹介【G】 まとめと練習1 be動詞 ① 学び方コーナー ② 単元テスト～Unit2振り返り ② 前期Aテスト～Unit1,2振り返り ②	Unit2 A Trip to the U.K. I am going to visit the U.K. next week./Show me your passport, please./People call it Big Ben.※イギリスについて【G】⑧ DailyScene2ていねいにお願ひ② まとめと練習① 学び方コーナー1① 単元テスト～Unit2振り返り② 前期Aテスト～Unit1,2振り返り②	Unit2 From the Other Side of the Earth I have lived in Japan for a month./He has lived in Japan for a month./How long have you known him?/The Amazon has been important for many years. ⑧ ※アマゾン川や熱帯雨林の恩恵と環境問題【G】 DailyScene2手紙 ② 前期A～Unit1,2振り返り ② G:オリエンテーション(1) ～東川・日本・世界の水事情～ 世界の水事情(ベトナム)(1)東川の水事情(水資源保全センター)(1) ③	
	Unit3 わたしの好きなこと I like math./Do you play the piano?/I do not play baseball. ⑥ ※日本と外国の習慣比較【G】 まとめと練習2 ① Listening Activity ① 単元テスト～Unit3振り返り ② G:オリエンテーション(1)題材選び(1)調べ学習(1) ③	Unit3 Career Day I greet customers to welcome them./I want to be a chef./I have many things to do.⑧ ※総合:職場体験との関連【L】 DailyScene3メール※外国へメール【G】② まとめと練習① Presentation1 将来の夢⑤ I want to be a doctor./I'm interested in health./I want to treat sick people. To be a doctor, I read books about medicine every day. 単元テスト～Unit3振り返り②	Unit3 Fair Trade Event Have you ever heard of "fair trade"?/I have just looked at the prices./ Have you looked at the price yet?/I am surprised to hear that.⑧ ※フェアトレードについて【G】 DailyScene3さそい② まとめと練習① ② 学び方コーナー① ① Presentation2修学旅行【G】④ 単元テスト～Unit3振り返り② G:～フェアトレード 世界と日本～ おいしいチョコレートの真実ワークショップ(1)東川での取組(Iico桐原氏)(1)調べ学習(2)④	
6月	Unit4 ホームパーティー I want a lemon./How many rabbits do they have?/Take a doggy bag./Let's use it. ⑥ 学び方コーナー4 ① Presentation1自己紹介 ② ※日本語学校との交流【L】 単元テスト～Unit4振り返り ② G:日本語学校生へ質問(2)調べ学習(2)発表準備(2) ⑥	Unit4 Homestay in the United States I have to speak English here./I will show you some pictures tomorrow./You must help your mother./You must not eat too much.⑧ 前期Bテスト～Unit3,4振り返り② DailyScene4電話の会話② まとめと練習① 学び方コーナー2① 単元テスト～Unit4振り返り② (10月前半も兼ねる)	Unit4 To Our Future Generations I know how to protect myself./It is necessary for us to prepare for disasters./I want you to pass on the memories.⑧ ※災害への備え【L,G】 日本のバイオリン作り人【L】 総合A～振り返り② 前期Bテスト～振り返り② DailyScene4道案内② 単元テスト～Unit4振り返り② G:調べ学習(1)発表練習(1)発表会(1) (10月前半も兼ねる)	
	Unit5 学校の文化祭 What is this?/The curry is delicious./What do you have for breakfast?⑥ ※日本と外国の食文化比較【G】 学カテスト② Daily Scene1 体調をたずねる ⑦ 単元テスト～Unit5振り返り ② G:発表物作成(1)原稿作成(1)	Let's read1 The Carpenter's Gift ④	Let's Read1 A Mother's Lullaby④ 単元テスト～Unit1,2,3振り返り②	
7月	Unit6 オーストラリアの兄 Haruki lives in Australia./Does Haruki live near here?/Haruki does not talk about animals.⑥ ※オーストラリアについて【G】 前期Bテスト～Unit4,5,6振り返り ② DailyScene2電話の会話 ① まとめと練習3 ② Listening Activity2① G:原稿作成(2) ④ (10月前半も兼ねる)			
	Unit5 学校の文化祭 What is this?/The curry is delicious./What do you have for breakfast?⑥ ※日本と外国の食文化比較【G】 学カテスト② Daily Scene1 体調をたずねる ⑦ 単元テスト～Unit5振り返り ② G:発表物作成(1)原稿作成(1)	Let's read1 The Carpenter's Gift ④	Let's Read1 A Mother's Lullaby④ 単元テスト～Unit1,2,3振り返り②	
8月	Unit6 オーストラリアの兄 Haruki lives in Australia./Does Haruki live near here?/Haruki does not talk about animals.⑥ ※オーストラリアについて【G】 前期Bテスト～Unit4,5,6振り返り ② DailyScene2電話の会話 ① まとめと練習3 ② Listening Activity2① G:原稿作成(2) ④ (10月前半も兼ねる)			
	Unit6 オーストラリアの兄 Haruki lives in Australia./Does Haruki live near here?/Haruki does not talk about animals.⑥ ※オーストラリアについて【G】 前期Bテスト～Unit4,5,6振り返り ② DailyScene2電話の会話 ① まとめと練習3 ② Listening Activity2① G:原稿作成(2) ④ (10月前半も兼ねる)			
9月	Unit6 オーストラリアの兄 Haruki lives in Australia./Does Haruki live near here?/Haruki does not talk about animals.⑥ ※オーストラリアについて【G】 前期Bテスト～Unit4,5,6振り返り ② DailyScene2電話の会話 ① まとめと練習3 ② Listening Activity2① G:原稿作成(2) ④ (10月前半も兼ねる)			
	Unit6 オーストラリアの兄 Haruki lives in Australia./Does Haruki live near here?/Haruki does not talk about animals.⑥ ※オーストラリアについて【G】 前期Bテスト～Unit4,5,6振り返り ② DailyScene2電話の会話 ① まとめと練習3 ② Listening Activity2① G:原稿作成(2) ④ (10月前半も兼ねる)			

学習期			
Globe科			
	中1【160】	中2【160】	中3【160】
10月	Unit7 ブラジルから来たサッカーコーチ Who is this girl?/What time is it?/Which do you speak at home, English or Portugueses? ※ブラジルについて【G】⑥ Daily Scene3 グリーティングカード ① 単元テスト～Unit7 振り返り ② G:発表練習(2) ②	Unit5 Universal Design If you are interested, we will send you a catalog./I think that baseball is interesting. When you are busy, I will help you./I opened the window because it was hot. Daily Scene5 道案内 ⑭ G:東川町の福祉・外国の福祉・外国のユニバーサルデザインを学ぼう ⑯ UDについて(1)東川町の福祉(1)旭川福祉専門学校体験(3)外国の福祉(2)UD調べ、発表準備(6)発表(2)まとめ「すごしやすい社会の実現に向けて自分ができること」(1) 単元テスト～Unit5 振り返り② 学カテスト～前期の振り返り②	Unit5 Living with Robots-For or Against The boy playing the guitar is my brother./The language used in Australia is English./I know what you mean./so...that~/too...to~⑧ ※意見をもち、伝える【L】 総合B～振り返り② Daily Scene5 電話の会話② 後期Aテスト～Unit3,4 振り返り② G:～東川の災害から考える～ 東川の災害(しきしま 水野氏)(1)東川での災害時外国人対応(アクティビティ)(1)②
	Unit8 イギリスの本 Where is my dictionary? / Whose book is that? / That is Kota. Do you know him? ⑥ ※イギリスについて【G】 Daily Scene4 ウェブサイト ① まとめと練習4 ② 単元テスト～Unit8 振り返り ② 学び方コーナー5 ① G:発表本番(2) ②	Unit6 Rakugo in English There is a cushion on the stage./Is there a special stage set?/We enjoyed listening to rakugo./Playing soccer is fun.⑧ Daily Scene6 詩② 後期Aテスト～Unit5の振り返り② Presentation2 町紹介【L】⑤ G:東川町の魅力を再発見し、外国人向けの掲示物を作成しよう。 ② 掲示物書き(1) 発表(1) 単元テスト～Unit6 振り返り②	Unit6 Striving for a Better World This is a book I bought from home./Deepa is a student who likes music very much./This is a movie that[which] makes people happy./This is a book that[which] she wrote last year.⑧ ※ノーベル平和賞と世界貢献【G】 総合C～振り返り② G:～東川の災害～続き ・災害時に使える英語表現(ロールプレイ)練習・本番(2) ・ディスカッションに向けた準備(2)本番(1)(プレゼント包装、野菜包装の可否) Daily Scene6 レポート② まとめと練習① 学び方コーナー① Presentation3 中学校生活【G】④ 単元テスト～Unit6 振り返り②
11月	Unit9 チャイナタウンへ行こう Kota is drinking water now./Are you taking pictures?/What are you doing?/Don't ask anyone./Be careful. ※中国について【G】⑥ 後期Aテスト～Unit7,8,9 振り返り② Daily Scene5 道案内 ① まとめと練習5 ② Listening Activity3① Presentation2 一日の生活② 単元テスト～Unit9 振り返り②		
	Unit10 あこがれのポストン Haruki can sleep anywhere./Can you skate?/When can you climb Mt. Fuji? ⑥ ※アメリカについて【G】 Daily Scene6 ちよつとお願い ① まとめと練習6② 単元テスト～Unit10 振り返り② 学び方コーナー6 ①	Let's read2 Try to Be the Only One ④	後期Bテスト～振り返り② Let's Read2 ⑤ The Green Door ※アメリカ文学に触れる【G】 3年生振り返り②
12月	Unit11 思い出の一年 I watched TV yesterday. / I came to school early this morning. / Did you travel this winter? ⑥ Daily Scene7 絵はがき① 学カテスト② まとめと練習7① 後期Bテスト～Unit10,11 振り返り② Listening Activity4① Presentation3 思い出の行事 ② ※英語でスピーチ【L】	Unit7 The Movie Dolphin Tale The dolphin is larger than the tuna./The blue whale is the largest of all animals./This movie is more popular than that one./This movie is the most popular in Japan.Miho is my best friend./Miho swims as fast as Yuji.⑧ Daily Scene7 買い物② まとめと学習① 後期Bテスト～Unit7,2年生の振り返り② 学び方コーナー3① Presentation3 ※好きなこと・もの【G】⑤ My favorite comic is ... 単元テスト～Unit7 振り返り② G:小学生からの手紙(1)	学カテスト～振り返り② Let's Read3⑥ An Artist in the Arctic ※日本人写真家【L】地球環境保護【G】 3年生振り返り②
	Let's read The Restaurant with Many Orders ③ ※日本文学を知る【L】	Let's read3 Cooking with the Sun ④ ※展覧会と再生可能エネルギーについて【G】	1年間のまとめ① Unit1～6まで
1月	Unit10 あこがれのポストン Haruki can sleep anywhere./Can you skate?/When can you climb Mt. Fuji? ⑥ ※アメリカについて【G】 Daily Scene6 ちよつとお願い ① まとめと練習6② 単元テスト～Unit10 振り返り② 学び方コーナー6 ①	Let's read2 Try to Be the Only One ④	後期Bテスト～振り返り② Let's Read2 ⑤ The Green Door ※アメリカ文学に触れる【G】 3年生振り返り②
	Unit11 思い出の一年 I watched TV yesterday. / I came to school early this morning. / Did you travel this winter? ⑥ Daily Scene7 絵はがき① 学カテスト② まとめと練習7① 後期Bテスト～Unit10,11 振り返り② Listening Activity4① Presentation3 思い出の行事 ② ※英語でスピーチ【L】	Unit7 The Movie Dolphin Tale The dolphin is larger than the tuna./The blue whale is the largest of all animals./This movie is more popular than that one./This movie is the most popular in Japan.Miho is my best friend./Miho swims as fast as Yuji.⑧ Daily Scene7 買い物② まとめと学習① 後期Bテスト～Unit7,2年生の振り返り② 学び方コーナー3① Presentation3 ※好きなこと・もの【G】⑤ My favorite comic is ... 単元テスト～Unit7 振り返り② G:小学生からの手紙(1)	学カテスト～振り返り② Let's Read3⑥ An Artist in the Arctic ※日本人写真家【L】地球環境保護【G】 3年生振り返り②
2月	Let's read The Restaurant with Many Orders ③ ※日本文学を知る【L】	Let's read3 Cooking with the Sun ④ ※展覧会と再生可能エネルギーについて【G】	1年間のまとめ① Unit1～6まで
	Unit11 思い出の一年 I watched TV yesterday. / I came to school early this morning. / Did you travel this winter? ⑥ Daily Scene7 絵はがき① 学カテスト② まとめと練習7① 後期Bテスト～Unit10,11 振り返り② Listening Activity4① Presentation3 思い出の行事 ② ※英語でスピーチ【L】	Unit7 The Movie Dolphin Tale The dolphin is larger than the tuna./The blue whale is the largest of all animals./This movie is more popular than that one./This movie is the most popular in Japan.Miho is my best friend./Miho swims as fast as Yuji.⑧ Daily Scene7 買い物② まとめと学習① 後期Bテスト～Unit7,2年生の振り返り② 学び方コーナー3① Presentation3 ※好きなこと・もの【G】⑤ My favorite comic is ... 単元テスト～Unit7 振り返り② G:小学生からの手紙(1)	学カテスト～振り返り② Let's Read3⑥ An Artist in the Arctic ※日本人写真家【L】地球環境保護【G】 3年生振り返り②
3月	Let's read The Restaurant with Many Orders ③ ※日本文学を知る【L】	Let's read3 Cooking with the Sun ④ ※展覧会と再生可能エネルギーについて【G】	1年間のまとめ① Unit1～6まで
	タイ語学留学生との対面の集い①	タイ語学留学生との対面の集い①	

(c) 新教科『グローブ(Globe)』の創設と指導内容、指導方法及び評価方法の在り方

(ア) **幼児センター（幼稚園）（年間10回）**

① めざす子ども像

『違う国の人と触れ合いながら外国語に慣れ親しみ、友達と仲良くする子どもを目指す』

② 主な学習内容

ALT が主体的に進め「色」「食べ物」「動物」「体」「数字」など幼児にとって身近で簡単な英単語に触れるために歌や踊りなど、楽しみながら外国語に親しめる活動を通して、英語を身近に感じるとともに、様々な国の文化に触れることができるようにする。

③ 実施の状況

4歳児は、日本の伝統行事や外国の行事等にかかわる活動を中心にALTが入り、英語でのゲームや歌などを通して交流を図ることにより、自分と違う国の人に親しみを持てることをねらいとしている。

5歳児は、ALTが主導し、簡単な英単語を使い、歌や踊り、ゲームなどの活動を通して英語を耳で聞き、自ら発音して、英語への興味・関心の伸長を図ることをねらいとしている。

(イ) **小学校（低学年～35時間 中学年～70時間 高学年～105時間）**

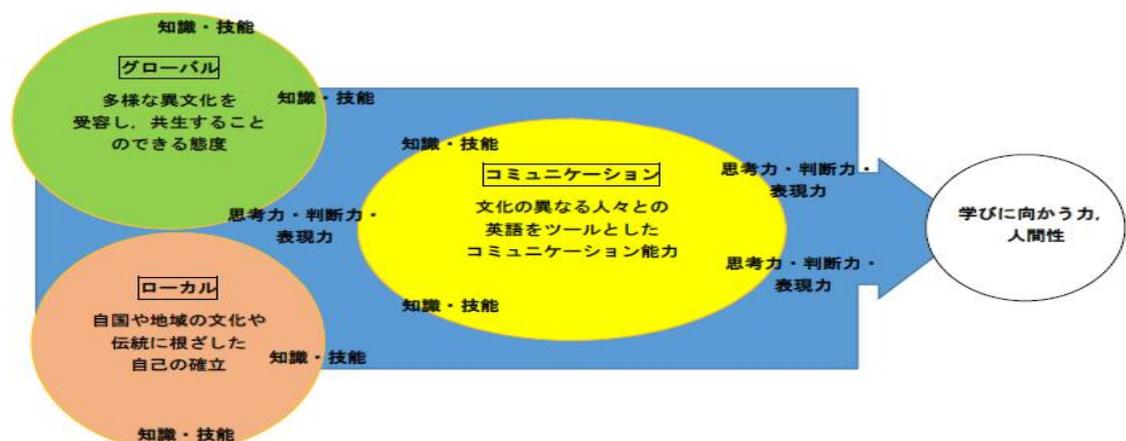
① めざす子ども像

『様々な国や文化について理解し、誰とでも寛容的で協力的な態度で接する子どもを目指す』

② 主な学習内容

様々な国や文化について理解し、他者に対し寛容的で協力的な態度で接する児童を育てるために、次のとおりカリキュラムを編成した。また、幼・小連携として、4月のはじめには幼児センターのカリキュラムとの系統性を踏まえた学習を位置付けるなど、児童が小学校での「Globe」にスムーズに取り組めるよう配慮した。

- ① 学習のはじめに地域教材や世界各国の文化などを扱い、それぞれがもっているよさや課題について考え、単元全体の課題を設定し、学習する必然性への見通しをもたせる。
- ② 課題解決に向けて必要な知識・技能の習得のため「Let's try」及び「We can!」などを活用する。
- ③ 単元の終末では、習得した知識・技能を活用し、様々な人とかわり、自分の考えを表現できる場面を設定する。



③ 実施の状況

様々な国の人たちとの接することに抵抗を感じる(恥ずかしさ、自分とは違う外見など)児童が多かったが、自然に英語で挨拶をする児童が多くなってきた。

昨年の外国語活動に抵抗を感じていた児童が意欲的に取り組むようになってきた。

挨拶、数字、食べ物などの単語だけでなく「他の国では何て言うのかな?」と世界に目が向けられるようになってきている。興味関心の高まりから「書きたい」「調べたい」と積極的な行動も目立ってきている。

外部講師などの人材をできるだけ多く活用したことで、様々な国と地域の人たちと触れ合うことに抵抗が少なくなってきている。(日本語学校の留学生、JET (ALT、SEA、CIR) メンバー、地域の人々)

外国の学校との交流を通して、世界を近くに感じ、お互いの文化について学ぶことを目的とした「ペチャンコスタンレー」の取組を行った。児童は、外国へ自分が作った絵が旅行することへの興味・関心や、どんな返事が来るかの期待が膨らんでいる。



(ウ) 中学校 (1・2・3年～160時間)

① めざす子ども像

『世界の諸問題を自分と結びつけて考え、解決方法を探り、自分の意見を発信する生徒を目指す』

② 主な学習内容

Globe I ～昨年度までの英語を実践～

東川町の児童生徒の目指す姿である「国際社会で活躍することができる人材の育成」のために、自分の住む地域である東川町や日本文化を理解するとともに、英語を用いたコミュニケーション能力を確実に定着させる授業の工夫を行った。また、外部講師の活用や、単元の終末における既習事項を活用する場面設定の工夫など、授業の改善を図った。

Globe II ～国際教育にかかわる単元を実践～

世界の諸問題について、地域素材やJETプログラムスタッフ、日本語学校の留学生など外部講師を活用することで、自分事として捉え、課題解決に向けて自分たちができることを考えられるよう、カリキュラムを編成した。中1では中2では中3では

③ 実施の状況

中学校第1学年の「Globe I」については、昨年からクラスルームイングリッシュを小学校、中学校で統一したことにより、日付、天気などを含めたやり取りもつまづくことなくできるようになった。

「Globe II」については、日本語学校との交流を通して、真剣に課題解決に向けて考えることができ、世界情勢を真剣に考える生徒が増えた。中2では、○自分たちの考えた文が、英語にできることの楽しさ、相手に伝える楽しさを生徒が感じ、英語を苦手とする生徒も仲間と協力



することで最後まで粘り強く取り組むことができた。今回の取組を通じて、生徒の英語や発表に対するモチベーションが少しあがったと感じる。感想には「次回はより良い発表をしたい」

「発表するとき目線や声量に気をつけようと思った」「英語が話せるようになりたい」など肯定的な意見が多く書かれていた。

中学校第3学年では、フェアトレードについて学んだことで、フィンランドに留学した際、ホテルにフェアトレードのコーヒーが置いてあったことに気づき、学んだことを体験できた姿があった。

(エ) 高等学校（1・2年～150時間、3年～100時間）

① めざす子ども像

『自己と世界とのつながりを意識したうえで、どのように社会にかかわっていくかについて、主体的かつ建設的に考え、意思決定し行動する生徒を目指す』

② 主な学習内容

高等学校は、自分と世界とのつながりを意識した上で、自分がどのように社会にかかわっていくかについて、主体的に考え、行動する生徒を育てるために以下のように、4期に活動を位置付けてカリキュラムを編成した。

第Ⅰ期：基礎英語力充実期

中学校英語を基に、コミュニケーション能力の基礎を養うための学習を展開した。

第Ⅱ期：Globeのための基礎養成期

教科書を基に、「基本情報→発展的内容」の組合せで自国や地域も含めた多様な社会や文化について基礎的な内容を扱った。

第Ⅲ期：関係構築と情報交換期

他者との関係構築を図るコミュニケーションの指導や目的に応じて必要な情報伝達を目指した授業を行った。

第Ⅳ期：社会参画準備期

第Ⅰ期から第Ⅲ期の間で学習したことを生かしつつ、生徒たちが高校卒業後に直面するだろう実際の場面を想定して、いかに主体的に社会参画できるかをテーマとした学習を行った。

③ 実施の状況

「Globe」の実践を重ねることにより、より目的意識をもって英語が使えるようになってきた。

昨年度より外部講師を多く取り入れていることから、世界に目を向けさせることや、世界について考えさせることができた。

東川町の魅力について英語を使って紹介したり、質問に応じたりする活動を通して、学習意欲が高まった。



(d) 幼・小・中・高における国際教育や英語教育の接続の在り方

(ア) 幼・小の連携

幼児センターで学習した内容を小学1年生のはじめの単元に組み入れることで、小学校で実施するGlobeを滑らかに進めることができると考えた。

また、Classroom Englishも統一した。

本町は、4つの小学校から1つの中学校へ入学することから、幼児センターからクラスルームイングリッシュを統一することで、校種が変わってもスムーズにコミュニケーションが図る

うとすることができると思った。

幼児センター	小学校（1・2）	小学校（3～6）	中学校
	Are you ready? Let's start.	Are you ready? Let's start.	
Hello	Hello	Hello everyone.	Good morning everyone. Good afternoon everyone.
How are you?	How are you?	How are you?	How are you?
歌	歌 How is the Weather today?	歌 What day is it today? What's the date today? How is the weather today?	歌 What day is it today? What's the date today? How is the weather today?

【「東川町クラスルームイングリッシュ」例】

また、幼稚園の年長クラスと小学校第1学年との間で毎年交流を行っている。今年度は、Globe を行い、自己紹介を英語で伝え合ったり、英語で話された色を当てたりしながら、楽しむことができた。幼稚園のカリキュラムは事前に分かっていたので、互いに無理のない英語を通してコミュニケーションを図ることができた。

(イ) 小・高の連携

昨年度は、小学校第6学年と高校生との交流として、「Hi、friends！2」の物語文「ももたろう」を高校生が英語劇で披露した。小学生にとっては英語の楽しさを実感することができ、自分たちも英語で表現したいという意欲につながった。また、高校生にとっては小学生に英語で伝えるために簡単な英単語や短い英文にしようと工夫したことにより、伝えられた喜びを味わう機会となった。



今年度も小・高との交流を図った。第6学年Globe7の学習において、相手により伝わる英語表現の方法を学ぶ際、自分だけでは気付けなかったことも、高校生のアドバイスのおかげで、より効果的に伝えることに気付くことができた。また、高校生にとっても小学生に伝えるために言葉を選び、相手にとって必要なことを考えながら活動する態度が見られた。



(ウ) 中・高の連携

小・中・高において、新教科「Globe」の学習では、外国語活動・外国語科、英語の時間が多くなることから、他の教科・領域との連携・協力が重要となっている。特に中学校・高等学校では、国際社会や文化の相違、国際的な問題・課題について理解を深め、外国語科の取組を他教科・他領域との連携を図りながら、進めていく必要があると考えた。そこで、「Globe」の要素が入った各教科・他領域において、「ローカル」「コミュニケーション」「グローバル」を意識することで、国際社会や文化の相違、国際的な問題・課題について知る・理解する・考えることができるよう、Globe 別葉として一覧表を作成した。

Globe 全体計画別業		Globeと各教科、領域の指導内容と時期との関連(6年生) 東川小									
高学年の 目指す 子ども像	Local	知識・技能	自分の地域や国の自然や歴史、文化を理解し、良さを知っている。								
		思考判断表現	様々な事象について自分の考えをもち、身のまわりの事柄に対する公平な判断力を身につけるとともに、自分自身のことや自分の考えをわかりやすく相手に伝えることができる。								
		学びに向かう人間性	集団活動に導いて参加し、自分の役割を自覚し、責任を果たそうとするとともに、自分を大切に、自分の地域や国の伝統や歴史、郷土を愛する心をもっている。								
	Global	知識・技能	他国や他民族等のさまざまな文化について知るとともに、我が国と他国の文化の違いを理解している。								
		思考判断表現	問題意識をもち、その問題に積極的に関わり、仲間と協力しながら課題を解決し、構成を考えたが、順序立てて表現することができる。								
		学びに向かう人間性	どの国・民族の文化でも尊重し、だれとでも公平に接するとともに、日頃から人との関わりを大切にしながら信頼関係を築き、寛容で協力的な態度で生活していくとする。								
Communication	知識・技能	外国語の音聲や文字、辞彙、表現、構文の働きなどについて、日本語と外国語の違いに基づき、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、書くことによる異文化間のコミュニケーションにおいて活用できる基本的な技能を身に付ける。									
	思考判断表現	コミュニケーションを行う目的や場、状況に応じて得意で簡単な事項について、聞いた話した話などをもとに、音聲で十分に表現し、また外国語の読みや基本的な表現を正確に読み取り、意味を正確に理解し、自分の考えや気持ちなどを伝えることができる。									
	学びに向かう人間性	外国語の音聲にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る。									
内容\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
Globe	Globe1 自分も相手も大事にしよう	Globe2 日本のよさを再発見しよう	Globe3 わたしたちにできること	Globe4 ここが私の生きる場所	Globe5 ここから未来と過去を見つめよう	Globe6 お互いを知ろう	Globe7 それぞれの思い出を振り返ろう	Globe8 将来の夢について	Globe9 中学校生活		
教科 単元	「形質のつくりかた」(L・C) 「動物のつくりかた」(L)	「動物のつくりかた」(L・C) 「動物のつくりかた」(L・C)	「動物のつくりかた」(L・C) 「動物のつくりかた」(L・C)	「動物のつくりかた」(L) 「動物のつくりかた」(L)	「動物のつくりかた」(L) 「動物のつくりかた」(L)	「動物のつくりかた」(L) 「動物のつくりかた」(L)	「動物のつくりかた」(L・C) 「動物のつくりかた」(L・C)	「動物のつくりかた」(L・C) 「動物のつくりかた」(L・C)	「動物のつくりかた」(L・C) 「動物のつくりかた」(L・C)		「動物のつくりかた」(L) 「動物のつくりかた」(L)
教科 単元	「動物のつくりかた」(L・C) 「動物のつくりかた」(L)	「動物のつくりかた」(L・C) 「動物のつくりかた」(L・C)	「動物のつくりかた」(L・C) 「動物のつくりかた」(L・C)	「動物のつくりかた」(L) 「動物のつくりかた」(L)	「動物のつくりかた」(L) 「動物のつくりかた」(L)	「動物のつくりかた」(L) 「動物のつくりかた」(L)	「動物のつくりかた」(L・C) 「動物のつくりかた」(L・C)	「動物のつくりかた」(L・C) 「動物のつくりかた」(L・C)	「動物のつくりかた」(L・C) 「動物のつくりかた」(L・C)		「動物のつくりかた」(L) 「動物のつくりかた」(L)
教科 単元											
教科 単元											
教科 単元											
教科 単元											

(e) 外国語に慣れ親しみ、異文化理解を深めるための地域人材の有効的な活用の在り方

本町には、JET プログラムスタッフが 17 名いる。特に ALT 6 名を、小（4 小学校）・中・高各校に 1 人ずつ配属することにより、授業はもちろんのこと休み時間や昼食時間などにおいても触れ合うことができ、日常的に外国が身近に感じられるようにした。

また、ALT に加え CIR (Coordinator for International Relations 国際交流員)・SEA (Sports Exchange Advisor スポーツ国際交流員) を活用し、外国語を活用する必然性のある言語活動や、「伝えたい」「伝わってうれしい」という充実感を得ることができるとともに、地域の人材との触れ合いから、日本文化を再確認する授業を設定した。

CIR や日本語学校の留学生とは、日本語を通して日本文化や外国の文化を交流することができると考え、単元のゴールを踏まえ効果的に交流する場面をカリキュラムに位置付けた。

(ア) 地域の人材 ～東川町や日本のよさを知る（または、再確認することができる）。

小学校 4 年生では、日本の遊びについて地域人材を活用した。けん玉、こま、あやとりなど、昔から日本で馴染みのある遊びを地域の方に教えてもらうことで、より日本の遊びのよさを体感することができた。それにより、外国人留学生との交流では、日本の遊びを既習の英語やジェスチャーを使って教えることにつながり、日本と外国の遊びの相違点や共通点など活動を通して、知ることができるとともに英語を使ってコミュニケーションを図ることにもつながった。



中学校では、東川町の **社会福祉協議会**の方を外部講師として招き、福祉について東川での取組などを交えて講話してもらった。その中で、生徒達からはもっと社協事業を知りたいやユニバーサルデザインを調べたいなど感想をもった。さらに体験学習も行うことで、生徒は、介護をする上で配慮することはどのような点なのかを知り障がいがある方の生活上の困難さを少しでも理解することができた。

(イ) 日本語学校の留学生 ～英語（簡単な日常会話）や日本語による異文化交流

東川町には日本で初の町立日本語学校があるので、様々な国の人々と接する機会も多く、児童・生徒にとって外国が身近に感じられる環境である。

中学校1年生の「日本文化を伝えよう～世界から見た日本～」というテーマのもと、中学生が留学生に「日本文化」について色々と質問をして、交流した。質問をし終えたあとも、お互いの国の文化の違いを話したり、日本や東川のいいところを聞いたりしていた。お互いに話を分かろうとする姿勢が見られ、国際交流を図ることができた。



日本語学校の留学生にとっては、日本語を学びに本町にやってくるので、できるだけ多くの人たちと話す機会が必要である。Globe にとっても、世界の食べ物や生活の様子などを直接聞くことができるので、外国を身近に感じることができる貴重な活動となった。

このように、日本語学校の留学生との交流は、互いに価値のある取組を実施することができた。



(ウ) JET プログラムスタッフの有効活用

CIR～主に日本語による異文化交流
ALT、SEA～英語による異文化交流



Globe の授業には、必ず ALT が入り、例示、チャンツなど、主に発音の指導を行う他に、異文化交流の際にも有効活用することができた。

小学校第5学年では、東川のお祭りを紹介する際に自分たちで調べ、英語で作成した東川のお祭りポスターを ALT・SEA・CIR に英語で伝えることができた。学習した英語を使ってあいさつし、簡単な質問もすることができた。さらに、母国のお祭りも紹介してもらい、自分たちの住んでいるお祭りとの共通点や相違点を比較することを通して互いのよさに気付くことができた。

また、中学校第2学年では、「ユニバーサルデザイン商品についてその良さと自分の考えを英語で発表しよう」という目標の下、英語での発表に挑戦する際に、外国の福祉について ALT や CIR に紹介してもらい、日本と外国の福祉について考える機会を与えることができた。最後に様々な人が「支え合う社会」を実現するために、「自分と違う状況の人の立場に立って、物事を考えるくせをつける」など真剣に考えることもできた。今後、学んだことを生活に生かしていくきっかけとなった。

この他には、中学校や高等学校では、様々な国の人々との交流を盛んに行っており、今年度は、中学校でフィンランドやタイの人々と、高等学校でロシアやタイの人々と交流を行った。文化の違いを理解したり、それぞれの国で抱えている諸問題に触れたりすることができた。

No	名前	母国と話せる外国語	
1	クロイ ALT	アメリカ	英語・韓国語
2	ドナ ALT	フィリピン	英語・フィリピン語
3	ウダ ALT	ノルウェー	英語・ノルウェー語
4	ケント ALT	カナダ	英語・日本語
5	ナタリー ALT	オーストラリア	英語・フランス語
6	ハナ ALT	アメリカ	英語
7	マット SEA	アメリカ	英語
8	ヤコブ SEA	ポーランド	ポーランド語・英語
9	ベテレ SEA	ノルウェー	英語・ノルウェー語
10	ナルギーザ CIR	ウズベキスタン	ウズベク語・ロシア語・(英語)
11	ファティ CIR	インドネシア	インドネシア語・英語
12	トゥー CIR	ベトナム	ベトナム語・(英語)
13	クリスタ CIR	ラトビア	ラトビア語・英語・ロシア語
14	スミッタ CIR	タイ	タイ語・(英語)
15	ズイ CIR	中国	中国語・(英語)
16	ミンジ CIR	韓国	韓国語・(英語)
17	ゾエ CIR	カナダ	英語・フランス語・中国語

(f) 配慮事項や問題点の記述

☆ 同内容異程度指導について

1、指導形態と指導内容について

(1) 東川第一小学校で行っている指導形態

①児童数（カッコ内は特別支援学級児童数）

学校名 学年	低学年人数		中学年人数		高学年人数		合計（名）
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
学年別児童数	3	6 (特学1名含む)	6	7 (特学1名含む)	6 (特学1名含む)	3	31
児童数合計	9		13		9		

②指導類型 → 同内容異程度指導

<複式学習指導における指導類型>



(2) 上記の指導形態をとる理由

①昨年度の校内研修の成果

本校では H28 年度から外国語活動を校内研修で取り組んだ。その結果、外国語活動に関しては、同内容異程度指導を行うことで、下学年が上学年の姿を見て、発語できるようになったり、文字を書きたがったりするなど、学習意欲だけでなく、英語での表現力の高まりが見られた。また、下学年と学ぶことで上学年は、自分自身の発語に自信を持つようになり、自己肯定感の高まりが見られた。このように、異学年が共に学ぶことでの効果を校内研修で成果としておさえ、本指導形態をとることとなった。

②Globe という教科の性質

Globe という教科は、多くの人と関わる中で、目指す資質・能力が育つと考える。例えば、課題解決のために獲得した知識及び技能（外国語の表現や語彙なども含め）を、様々な人と対話することで「もっとたくさんの友達や先生に自分の思いを伝えてみたい。聞いてみたい」「どんな反応をしてくれるかな」など、コミュニケーションをとる楽しさを感じる。その結果、自分の気持ちをより伝えるために、色々な情報の中から取捨選択して伝えるなど、思考力・判断力・表現力等が深まる。この経験が、やがて「もっと英語を話したい。使ってみたい」という主体的な学びへつながっていくと考える。

学年別指導について大澤（2009）は、「学年別指導は突然の転出入に対応しやすく、学年相応の課題に取り組むことができる。しかし指導に時間を費やしたり、教材研究が2倍になったりする、などの課題がある。また外国語活動はコミュニケーションが主たる活動になるため、同一教室での指導では活動のずれが生じるため有効ではないだろう。」「複式学級の指導方法は複数あるが、小学校外国語活動における指導方法として「2本案」が適していると考える。①コミュニケーション活動が主になる教科であるため、同世代の相手が多くいたほうがよい。②発声や歌、ゲーム活動など児童の動きが活発になることが予想されるため、同一教室における異内容指導は不適である」（大澤、窪田、山川（2009）移動教育センター共同研究（八重山地区）「複式学級における小学校外国語活動のあり方について一効果的な指導方法の工夫と年間指導計画の作成を通して」 p.112-113」とい述べている。

本校で学年別指導をすると、一学年の人数が3人という学年が二学年あり、上記の通り、コミュニケーションの広がり不安があった。コミュニケーションの幅が狭いと、Globeのねらいを達成しづらいのではと考えた。

また、別教室でのわたりずらしにより、ALTや担任と接する時間が少なくなることが考えられた。小学校の学習活動は、児童理解が土台となる学級経営が要である。担任はGlobeのねらい資質・能力を育成できているか評価をするが、この部分においても、学年別指導を行うことで、不安があった。したがって、本校では、より多く的人数で対話を楽しむ学習に取り組むこと、すなわち、同学年異程度の指導形態をとることで、Globeの目指す子ども像へさらに近づけると考え、H30年度の実践に取り組んだ。

(3) 指導内容

H30年度は、ワーキンググループで作成したGlobe複式カリキュラムを全学年で実施した。ただし、一部、昨年度の外国語活動・英語活動のカリキュラムと重複する部分があったため、移行措置の視点も考慮しながら、本校の実態に合わせ、編成し直しながらの実施となった。（例：Globe複式カリキュラムⅠの3、4年Globe3「すきなものをつたえよう（I like blue）」→昨年度の3、4年英語活動「Do you like?」実施→Globe複式カリキュラムⅡのGlobe3「数えて遊ぼう（How many?）」と入れ替えた）

2、今年度の実践（工夫と成果）

(1) 目的に応じたチーム編成の工夫

①異学年混合のチームで取り組む

チームで課題解決をする学習や、コミュニケーション活動の定着やレベルアップをねらった学習では、児童の実態を考慮しながら、異学年混合チームで取り組ませ、一人一人の力が伸びるよう工夫した。その結果、下学年にとっては、慣れていない学習では、上学年の子をモデルに学習することで徐々に学びを獲得する姿があった。また、わからないことがあっても、同じチームの上学年から教えてもらうことで、課題を解決することができていた。上学年にとっては、下学年に教えることで、学習内容がより定着したり、頼りにされることで、自己肯定感が高まったりした。特に、普段、なかなか自信が持てない児童が、自分から関わろうとしている姿も見られた。具体例は以下に示す。

(例1) 5、6年 Small Talk

5、6年生の異学年混合チームで Small Talk に取り組ませた。Small Talk に昨年度から取り組んできた6年生が、慣れない5年生のモデルとなり、共に会話をした。その結果、より多くの友達と会話をする事で、「表現内容の授受を楽しむ」ことができ、既習表現の定着を図ることにつながっている。また、Small Talk の手順がわかるようになっただけでなく、本来、Small Talk で大事にするべき「対話を続けるための基本的な表現の定着」(「研修ガイドブック」p.84 p.130)についても、6年生と共に経験することを重ねることで、自分のものにしていっている。



5、6年生 Small Talk

(例2) 3、4年 Globe7「日本の遊び、世界の遊び」

1、2年 Globe3「リンゴを5つください」

本単元では、日本の遊びを外国の方に伝える課題を解決する学習がある。そこで、プレゼンテーションや遊びの説明をどのように行うか、異学年が集まるチームで考えさせた。こまを担当したチームでは、3年生がプレゼンの仕方に困ったときに、4年生が教えてあげたり、福笑いのチームでは、4年生が、班での話し合いを進めたりする姿があった。特に、児童の実態を考慮した異学年同士での班を編成したことで、児童の生き生きとした姿や自己肯定感の高まりへつながったと考える。

1、2年 Globe3「りんごを5つください」の学習でも同様の姿が見られた。同学年同士の学習だと甘えてしまい、わがままを言いがちな児童が、一年生を加えた班になると途端にお兄さんぶりを発揮して、一年生の意見を聞いてあげたり、一年生によりそって活動をサポートしてあげたりする姿が見られた。



3、4年生「日本の遊び、世界の遊び」
日本の遊びを伝えるプレゼンテーション

②同学年のチームで取り組む

同学年児童が構成するチームの方が、学習の目的を達成しやすい内容の時は、同学年チームで取り組ませた。

(例1) 5、6年 Globe1「自己紹介をしよう。世界を知ろう」
この単元では、CIR や ALT などの外国の先生に自己紹介をしたり、異文化を教わったりという学習である。この学習の時に協力して下さった CIR の方は日本語が堪能な方で、一方、ALT は日本語が苦手だったため、英語でのやりとりが中心になることが予想された。そのため、異文化理解ということに重点を持たせるために、外国語にまだ不慣れな5年生を CIR の先生と関わるグループに、一方、外国語活動を一年間行ってきていた6年生を、ALT の先生と関わるグループにわけ、取り組ませた。このように、5年生は日本語を中心に、6年生は英語を中心に、異文化理解を目的にした学習を行った。5年生は CIR のふるさとについて日本語という言語で異文化を理解し、一方、6年生は、ALT の英語の説明に耳を傾け、知っている単語を聞き取り、英語で ALT の国の情報を理解していた。



1、2年生「くだものやさんでおかいもの」
「〇〇ちゃん(上級生)には、この果物をプレゼントしたら喜ぶんじゃない?だって...。一年生はどう思う?」と対話しながら課題解決。

中学年のアルファベット学習では、同学年同士のチームでアクティビティーを行った。4年生は昨年度の朝学習で、大文字の認識を図るゲームをするなど、大文字にふれてはいたが、3年生は今年度初め

てアルファベットの学習に取り組んだ。そのため、今年度の目標としては、3年生は大文字を、4年生は小文字の音と形を認識させることにした。そこで、このアクティビティーでは、3年生は大文字のカードで、4年生は小文字のカードでゲームをした。このように、学習の差があり、各学年の定着を図りたい内容だと判断した活動では、同学年同士のチーム編成をした。



5年生は日本語と英語でCIRと交流

(2) 異程度の明確化

各学年での学習程度を明確にするため、異程度の部分を指導案の備考欄（資料1）に記入し、指導者全員で異程度について共通理解を図った。そして、どの指導者でも、適切な声かけができるようにした。

なお、異程度を児童自身も意識できるように、Today's Goalを確認する時に、各学年が目指してほしい姿を、HRTから伝えた。このように、子どもも指導者も異程度を共に意識しながら学習に取り組んだことで、Globeがめざす資質・能力の育成を図ることができていると考える。

(3) Globeでのその他の成果

①自分から関わろうとする姿が圧倒的に増えた

今年度、特にあげられる成果としては、様々な外国の方に、自分から関わろうとしていたことである。この背景としては、Globalのめざす「多様な異文化を受容し、共生することのできる態度を育成する」の部分において、異文化を知ったり、他の国の方と関わる楽しさを体感したりした成果であると感じる。この点については、学習後に書く振り返りシートの記述にも表れている（reflection sheet 1）

① 東川のお祭りを、ラトビアの方たちに伝えた時の感想(伝えてどうだった?理由も書いたらぜひ)

上手に伝えられたし、わが、てくれたのてよか、た。

① 東川のお祭りを、ラトビアの方たちに伝えた時の感想(伝えてどうだった?理由も書いたらぜひ)

ラトビアの方がうをしようた、ア-リして、アホもうたしくた。

11	6/22	東川のお祭りのことを伝えよう!! ラトビアのことを伝えよう!!	④ 3 2 1	④ 3 2 1	うまにも花のまはわりをかかまががすまきこい。	ラトビアの夏休み長くて暑いまたーい。	わがなみうにしていた人じ手をさしの手をあけぬました。	ラトビアで一年間すごしたみたです。
----	------	------------------------------------	------------------	------------------	------------------------	--------------------	----------------------------	-------------------

日ねないあまつりなんでできるわけない。でもたのし。

練習した表現が相手に伝わった!という達成感

「他の文化もステキ!」興味関心が高まる

reflection sheet 1 (5,6年「東川の祭り、世界の祭り」)

② 英語を進んで使おうとする姿

Globeを通して学んだ表現を、進んで使おうとする児童が多くなった。例えば、自己紹介の表現に関しては、ゲストが来る度に使用していたため、全校児童が今では練習しなくても、自然に言うことができるようになってきている。児童の振り返りシート（振り返りシート2）には「通じてうれしかった」などの記述があり、数々の成功体験が意欲化につながっていると考える。また、「この言葉は英語でなんて言うの?」という質問もたくさんするようになった。

その他、日常生活でも英語を進んで使う場面が多く見られた。廊下ですれ違うときに「How are you today?」と何気なく問いかけてきたり、言い慣れた数字や歌を学校生活で数多く使ったりしている。また、「英語をもっと書いたり、話したりしたい」という、Globeの学習が、外国語を学ぶ動機付けとなっていることが考えられる。

様々な国の人々をゲストティーチャーや外部講師として迎え入れたことで、目的意識が明確となり、より主体的に取り組むことができている。

子どものふり返りにもある通り、ローカル要素・グローバル要素を取り入れ、地域の題材や世界の文化に触れる活動を多く展開してきたことで、地域への愛着および世界への視野が広がる態度が育ってきている。

○世界にはいろいろな人がいろいろな文化があるけれど、どこでも共通の仕事があり、その仕事を目指すのは「他国の人」ではなく、みんな同じ「人」なのだとわかった。
○日本にはたくさんの職業があって、外国とは違う職業がある。それが日本の文化でよいと思う。交流するたびに、たくさんの職業の名前が出てきて、意外な職業になりたい人が多かった。

6年生のふり返りから

GTEC-juniorの結果をみると、4領域にわたって6年生として十分な力が備わっていると判断できる。Globeを通して外部講師や友達とのやり取りを多く取り入れていることもあり、特に聞くことに力が向上しているのがわかる。これは、1年生からGlobeを実施しているのだから。これは、1年生からGlobeを実施しているのだから、全学年が外国を身近に感じるとともに、ALTを中心として英語をたくさん聞かせていることから聞く力がついてきていると考えられる。

	H30	
聞く	91.3	Grade4
読む	77.5	Grade3
話す	78.5	Grade3
書く	79.7	Grade3
総合	327.0	Grade3

GTEC-junior 平均スコア

しかし、小学校で取り扱っている英語表現が中学校GlobeのCommunication要素の小・中の系統性が明確になっていない。

【中学校】

Globe Iにおいて、「話すこと」「読むこと」「聞くこと」「書くこと」の4技能をバランスよく展開させていったことにより、英検 IBA の結果の通り成果が表れている。また、小学校から統一しているClassroom Englishにより、授業のはじめがより進めやすく、特に中1の4月の授業では、積極的にかかわろうとする姿が目立った。

	H29	H30	
中1	627	635	4級のレベル
中2		736	4級のレベル
中3		784	3級のレベル

※リーディング・リスニング 平均スコア

Globe IIにおいて、中1では日本文化、中2では福祉、中3では世界の諸問題を扱い、「環境」「福祉」をテーマに自分なりの考えをもつことを展開させていった。その際に、外部講師をできるだけ多く活用していった。

今回の学習があったからこそ、外国の方と関わり自分で話すことができました。英語がしゃべれる訳じゃないけれども、ともとも簡単なことでいいから話してみたいと思いました。そして日本文化には私が知らないことがまだまだあることにワクワクしました。私が調べた桜もちにも2種類あることを始めて知り、驚きと笑に楽しさも感じました。

中1のふり返りシート ..

生徒のふり返りからわかる通り、知らなかったことに触れたり、題材を通して自分なりに考えたことで、世界への視野が広がったことが大きな成果として挙げられる。

Globe IIの学習を振り返って(感想・反省)

福祉について全然知らなかった。これも一つ。初めて知ることができて「楽しかった」。国によってこんなにも制度が変わるんだと思ったし、福祉も福祉に関わっているんだなと思いはし。実際に言ってみて、自分が思っているよりずっと身近にあったものなんだと改めて感じました。ユニバーサルサインについて調べて日本語で文を作ってみても大変だったけど、英語を調べて取り返すのも大変でした。先生方に教えてもらいながら書いたことが多かった。少しでも自分で考えたりして書けることを増やしたいと思いました。発表会当日は、さんこうして

中2のふり返しシート

しかし、Globe IIでは、Globe Iで学習した英語の力を使って世界の諸問題について自分の考えをもつことをねらったが、専門的な用語や表現が必要となり、Globe IとGlobe IIがスパイラルにつながって進められることができなかった。また、Globe I・Globe IIを分けて考えることにもつながり、英語と総合で分けて進めていることと変わらないとの指摘もあった。

来年度は、中学校Globeの見直しを考える必要がある。

【高等学校】

東川中学校から東川高等学校への入学者数は毎年10人程度である。したがって、町外から通学している生徒がほとんどなので、Communication要素にかかわる中学校と高等学校とのつながりは難しい。したがって、高等学校では、外部講師とのかかわりを多く取り入れて、自分と世界とのつながりを意識させる授業を展開させていった。

- ロシア人との交流を通して国際社会の多様性を知る機会となった。
- タイ人との交流を通して国際社会の多様性を知る機会となった。
- 町内に一定以上長く滞在しているALTの視線から、東川町の魅力を再発見した。
- 隣町にある旭川インターナショナルスクール(就学前児童)と異世代交流学習を通して、自らの役割を自覚させる機会となった。
- 町内小学校第6学年と英語表現について教える活動を通して、相手に配慮する態度を養うことができた。
- 修学旅行先での外国人へ積極的にかかわり、東川町をアピールする活動を行った。

このように、様々な国の人々および異世代との関わりを通して、より目的意識が高まり英語を使って活用しようとする意欲的な態度が見られた。

英検IBAの結果では、特にリスニングにおいて成果が表れた。外部講師を多く取り入れた結果、英語に触れる機会が多くなり、聞く力が向上していると考えられる。

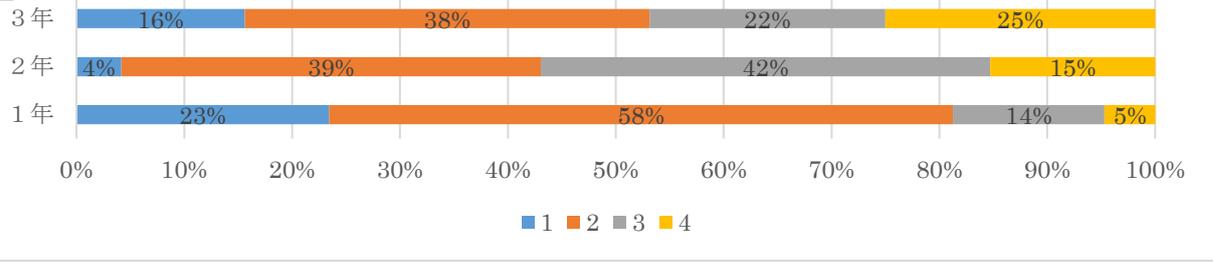
	H29	H30	
高1	724	745	3級のレベル
高2		761	3級のレベル
高3		752	3級のレベル

さらに、Globeに対する関心も向上している。

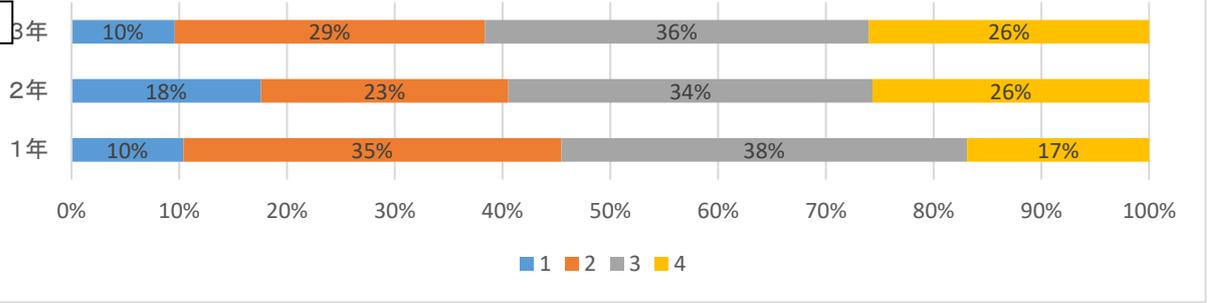
※リーディング・リスニング 平均スコア

1. あなたは、Globeは好きですか。
 - 1 好き
 - 2 どちらかといえば好き
 - 3 どちらかといえば好きではない
 - 4 好きではない

H30



H29



教職員

小学校では、HRT（学級担任）が全体の指示や、発問を行い、ALT が例示、チャンツなど主に発音の指導を行うなど、JTE と ALT の役割を明確にした授業を行うことができるように指導体制を工夫した。はじめは戸惑いも見られたが、授業へのイメージがつかめるにつれ、積極的に授業改善に取り組むことができるようになってきた。

中学校では、「Globe I」は英語教師が指導を行い、「Globe II」は学級担任が指導を行うなど役割を明確にするとともに、校内研修の充実を図るなど校内体制の構築が図られていた。

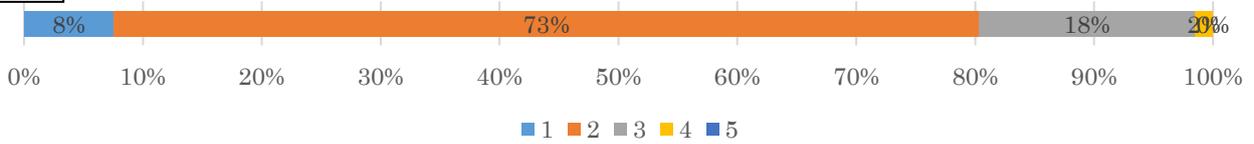
高等学校では、担当教員が中心となって「Globe」を行っている。他教科・他領域の学習にも「Globe」が関連した取組を行っている。

こうすることにより、「Globe」についての理解も向上し、積極的に取り組むことができるようになってきている。さらに、全町の教職員で進めていく意識を高めていく必要がある。

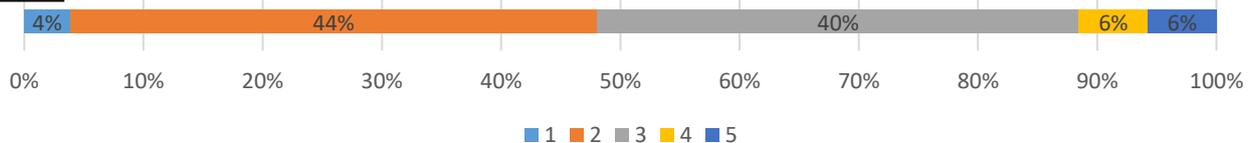
1 あなたは、新教科「Globe」についてだいたいのイメージが持っていますか。

1 よく 2 おおよそ 3 あまり 4 ない 5 わからない

H30

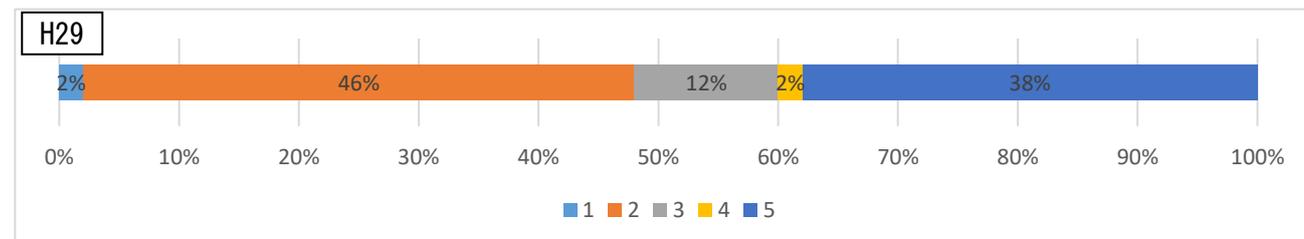
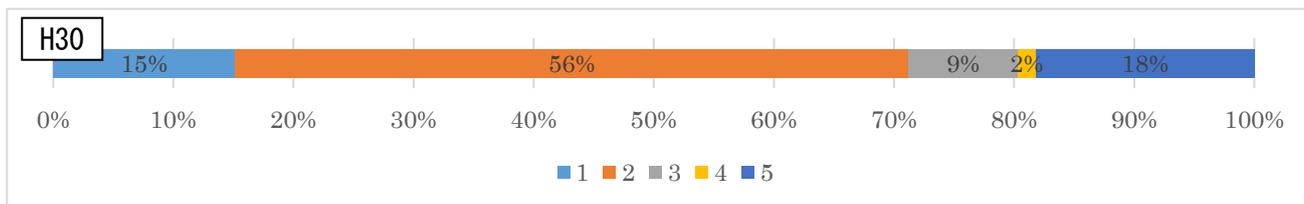


H29



8 本町が進める新教科「Globe」は、めざす子ども像を達成するに値するものになっていると思いますか。

1 よく 2 おおよそ 3 あまり 4 ない 5 わからない



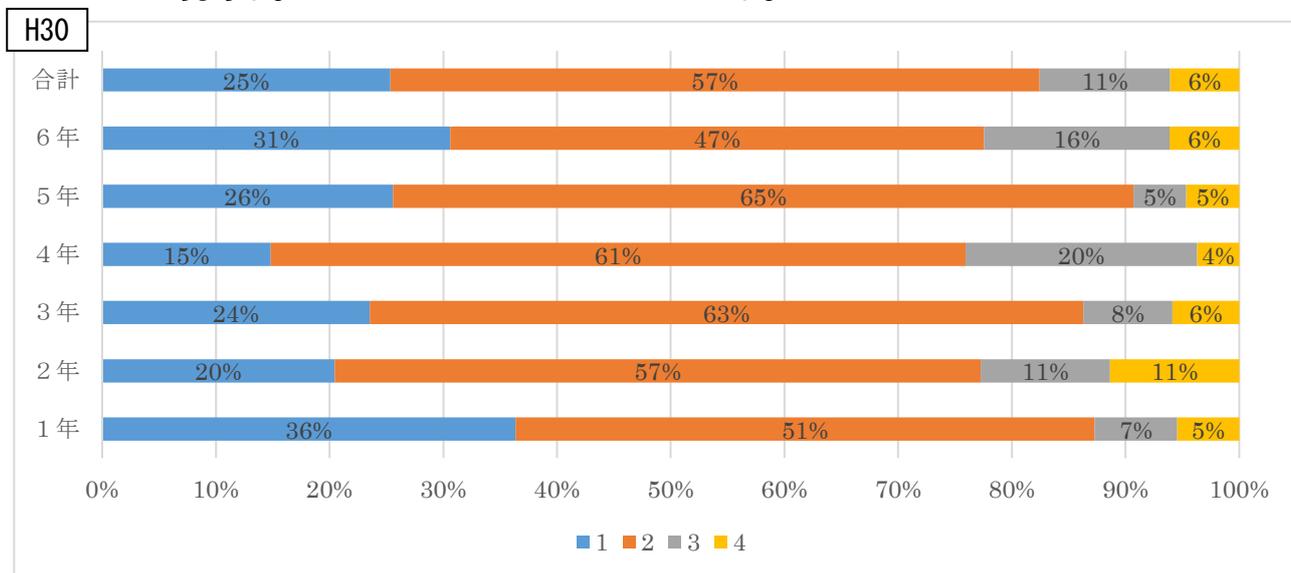
保護者

国際教育には高い関心をもつ保護者が多い。今年度から「Globe news」と題して幼・小・中・高の校種別における「Globe」の取組を町民・保護者へ発信した。

小学校では、Globe について家庭で話題になることが多く、地域への行事参加率も高いことから、Globe への関心の高さが各家庭でも表れている。

○お子様は、Globe の授業について話をしますか。

1 よくしている 2 たまにする
3 あまりしない 4 しない



オ 研究開発実施上の問題点及び今後の研究開発の方向

自分の生まれ育った地域への愛着をもち、異なった価値観、考え方をもつ人たちと関わりながら生活できる児童・生徒を育てたいと願いGlobe を実施してきた。幼・小・中・高とそれぞれ実施し、一応の成果をもつことができたが、課題も山積であった。特に、校種ごとに実践したことがどのようにどう系統立てられているかが不明瞭であったので、整備が必要である。また、カリキュラム実施の際に、

したがって、来年度は特に以下の点について研究を進めていきたい。

☆Local/Global にかかわる系統性について

(1) ローカル・グローバルの系統性の確立

雄大な自然景観に恵まれ、豊かな水と肥沃な大地の恵みと共に生活できる東川に住んでいる児童・生徒は、恵まれた環境であってもそれが当たり前のこととなっている。また、子育てや東川町は福祉の町としても不自由なく生活していることも事実である。そういった地域の中で生活している児童・生徒だからこそ、ローカル要素・グローバル要素の「環境」「福祉」をキーワードに系統立たせていく必要があると考え、今年度は実践してきたが、校種間の系統性はあまり意識されていなかった。

そこで、ローカル・グローバルにかかわる系統性を確立させていきたい。

特に中学校から高等学校につながりを意識させていく。

(2) 校種間および各校における他教科・他領域とのかかわり

上記のように、系統立たせていくと、Globe の時間だけでは不十分であることがわかった。そのため、今年度作成した他教科・他領域にかかわる Globe 別葉を活用し、全教職員で進めていく必要がある。

☆カリキュラムの修正

(1) 英語表現の系統性の確立

今年度の小学校 Globe において授業改善を図りながら実施したことをふり返ってみると、扱った英語表現は中 1 の Globe I で学習する中で数多く出てくることが分かった。ただ、どの学年でどのような英語表現を扱ったかを明確にまとめていないので、系統性を明確にしたカリキュラムにまとめていく必要がある。(コミュニケーション要素)

(2) 中学校授業改善に向けて

今年度の中学校は Globe I (コミュニケーション)・Globe II (ローカル・グローバル) と実施してきたが、Globe I で学習した英語の力を使って Globe II で世界の諸問題を自分と結びつけて考えられる展開となることが少なかった。Globe II で学習した内容が Globe I での学習につながることも多くはなかった。

そこで、Globe カリキュラムを修正し、授業改善を図っていく必要がある。

今のところ、小学校 Globe で培った英語表現をもとに 1 年生でコミュニケーション要素を 2 年生・3 年生ではローカル・グローバル要素を中心に作成し直していく方向で考えている。

☆複式について

(1) カリキュラム構成の工夫

複式教育課程でも、先に述べたように学習する英語表現や語彙の系統性が度々課題となった。同内容であるからこそ、下学年に負担のない学習内容の配列が必要であり、上学年にとっては、さらにレベルアップできるような内容でなければならない。色々な方と関われる Globe だからこそ、また、子ども達の身近な事柄を題材にする Globe だからこそ、さらなる可能性を感じている。

(2) 複式同学年異程度指導の効果検証とそのエビデンス

同学年異程度指導の有効性を検証することは大変難しい。今後、検討していくことになるが、同学年異程度指導の有効性について、児童の振り返りシートや児童の行動観察(必要ならば児童を抽出し変容の経過を追う)を分析し、エビデンスの一つとしていく。この点において、島根県雲南市では、大学の協力を得て、児童の振り返りシートの記述を追い、質的分析を行っている。本校でも他機関からアドバイスをいただきながら、検証していきたい。